2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1年	学期	前期
科目名	心理学 I	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	八木 順子	実務経験	無	時間数	30
学修内容	心理学の視点から人について学びます。 ① 人の発達課題・問題 ②精神疾患 ③コミュニケーション技法				
到達目標	心理学を学ぶことにより、人への深い理解をもつことができるようになる。				
成績評価	試験・提出物・出席等で総合的に評価します。				
使用教材	プリントを配布いたします。				
留意点					

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション・心理学について
第2回	自分自身を知る
第3回	こころとからだ
第4回	身体関連障害
第5回	発達について
第6回	こころの発達Ⅰ（胎児期・新生児期）
第7回	こころの発達Ⅱ（乳児期・幼児期）
第8回	こころの発達Ⅲ（学童期）
第9回	神経発達障害
第10回	児童虐待
第11回	こころの発達Ⅳ（青年期）
第12回	不安障害
第13回	摂食障害
第14回	コミュニケーション技法Ⅰ
第15回	まとめ

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1 学年	学 期	前期
科目名	保健概論 I	科目の別	講義	単位数	2 単位
担当教員	戸崎 素成	実務経験	有	時間数	30 時間
学修内容	柔道整復師になるのに必要な運動器の名称と機能を体感する 運動機能向上のメカニズムを理解し実践する				
到達目標	主要な骨格筋の名称を理解しストレッチ・手技療法を通じて体感する 患者さんの指導管理に必要となるスポーツを体感する				
成績評価	出席 5 0 % 授業内の課題 5 0 %による				
使用教材	競技者の外傷予防 JATI 指導テキスト				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	授業概要
第 2 回	運動器について
第 3 回	ストレッチについて
第 4 回	セルフストレッチ 上半身
第 5 回	セルフストレッチ 下半身
第 6 回	パートナーストレッチ 上半身
第 7 回	パートナーストレッチ 下半身
第 8 回	手技療法
第 9 回	手技療法
第 10 回	運動学習と指導法
第 11 回	運動と栄養
第 12 回	スポーツ障害（成長期、女性、高齢者）
第 13 回	スポーツ外傷
第 14 回	スポーツ外傷
第 15 回	復習

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1年	学期	前期
科目名	英語 I	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	牧 祥子	実務経験	無	時間数	30
学修内容	一般常識としての基礎的で実践的な英語の発音・文法・単語と英会話。 簡単な専門用語。				
到達目標	日常会話レベルにおいて、伝えたいことを伝えるための土台としての発音・文法の基礎を身につける。また、英語に対する苦手意識を減らし、英語でのコミュニケーションに対する自信をつける。				
成績評価	定期試験（中間試験 30 点、期末試験 70 点）				
使用教材	プリント等				
留意点	授業に集中し、前向きに取り組んでください。				

回数	授業計画
第1回	ガイダンス
第2回	発音・文法・専門用語の英単語（基礎）
第3回	発音・文法・専門用語の英単語（基礎）
第4回	発音・文法・専門用語の英単語（基礎）
第5回	発音・文法・専門用語の英単語（基礎）
第6回	発音・文法・専門用語の英単語（基礎）
第7回	発音・文法・専門用語の英単語（基礎）
第8回	発音・文法・専門用語の英単語（基礎）
第9回	中間試験
第10回	文法・英会話・専門用語の英単語（基礎）
第11回	文法・英会話・専門用語の英単語（基礎）
第12回	文法・英会話・専門用語の英単語（基礎）
第13回	文法・英会話・専門用語の英単語（基礎）
第14回	文法・英会話・専門用語の英単語（基礎）
第15回	文法・英会話・専門用語の英単語（基礎）

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	解剖学 I	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な骨格系の知識を修得する。				
到達目標	骨の部位名称及び上肢帯の筋が理解できること。体表から触れる構造については、正確に触察できること。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	解剖学（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・医歯薬出版） 人体の正常構造と機能 日本医事新報社 プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（医学書院） 骨学のすゝめ（南江堂）				
留意点	学習内容が多いため、講義ごとに復習すること。 骨格模型や体表触察を通じて、筋骨格系の3次元的な理解を心がけること。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション 骨学総論 全身の骨
第 2 回	肩甲帯（鎖骨・肩甲骨）
第 3 回	肩甲帯の筋
第 4 回	上腕骨、肩関節
第 5 回	肩関節に関係する筋
第 6 回	肩関節に関係する筋
第 7 回	橈骨・尺骨、肘関節
第 8 回	橈骨・尺骨、肘関節
第 9 回	上腕の筋
第 10 回	手指の骨、手関節
第 11 回	手指の骨、手関節
第 12 回	前腕の筋
第 13 回	手内筋
第 14 回	頭蓋
第 15 回	頭蓋

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	解剖学Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	緒方 華	実務経験	有	時間数	30
学修内容	人体の構造をマクロからミクロまで統括的に学び、機能的意義を理解する。				
到達目標	人体構造の系統を把握し、解剖用語によって正確に説明できる。 内臓系の構成、細胞・組織の特徴、機能的・臨床的意義を説明できる。				
成績評価	定期試験、小テスト、レポート、学習態度				
使用教材	『コメディカルのための臨床解剖学サブノート』 『解剖学』医歯薬出版株式会社				
留意点					

回 数	授 業 計 画
第 1 回	内臓系 消化器Ⅰ 総論、口（1）
第 2 回	消化器Ⅱ 口（2）
第 3 回	消化器Ⅲ 咽頭、食道、胃
第 4 回	消化器Ⅳ 小腸
第 5 回	消化器Ⅴ 大腸、肝臓
第 6 回	消化器Ⅵ 胆嚢、膵臓、腹膜
第 7 回	呼吸器Ⅰ 総論、鼻、喉頭
第 8 回	呼吸器Ⅱ 気管・気管支、肺、胸膜
第 9 回	泌尿器Ⅰ 総論、腎臓
第 10 回	泌尿器Ⅱ 尿管、膀胱、尿道
第 11 回	生殖器Ⅰ 総論、男性生殖器（1）
第 12 回	生殖器Ⅱ 男性生殖器（2）（3）
第 13 回	生殖器Ⅲ 女性生殖器（1）
第 14 回	生殖器Ⅳ 女性生殖器（2）
第 15 回	生殖器Ⅴ 女性生殖器（3）

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	解剖学Ⅴ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	中野 隆	実務経験	無	時間数	30
学修内容	神経系の構造と機能を統括的に学び、その意義を理解する。				
到達目標	神経系の構造を統括的に理解し、解剖学用語によって正確に述べることができる。 神経系の構造と機能を結びつけて説明できる。 神経系、運動器系、感覚器系、内臓系の知識を統合し、説明できる。 画像解剖学と対応させて、神経系の三次元構造を説明できる。				
成績評価	定期試験（100%）				
使用教材	コメディカルのための臨床解剖学サブノート プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト第2版（医学書院） 機能解剖で斬る神経系疾患 第2版（メディカルプレス） 骨学のすゝめ（南江堂）				
留意点					

回 数	授業計画
第1回	解剖学総論
第2回	神経系総論
第3回	中枢神経系総論
第4回	中枢神経系総論
第5回	脊髄
第6回	脊髄
第7回	脊髄
第8回	脳幹
第9回	脳幹
第10回	脳幹
第11回	間脳
第12回	小脳
第13回	大脳皮質
第14回	大脳皮質
第15回	髄膜

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	生理学 I	科目の別	講義	単位数	1 単位
担当教員	小野 健治	実務経験	無	時間数	30 時間
学修内容	生理学とはどのような学問か理解し、神経細胞や筋細胞の基本的な性質や機能についての知識を習得する。				
到達目標	生体がどのように構成されているか理解する。神経細胞の構造を理解する。 神経細胞の機能とその機序について説明することができる。 筋細胞の構造や機能を理解し、骨格筋、平滑筋、心筋の違いを説明することができる。				
成績評価	定期試験で評価する。 定期試験は、前期授業内容の全範囲から出題する。				
使用教材	生理学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 トートラ人体の構造と機能 丸善出版 授業はスライドを用いて行い、授業時にはスライドを印刷したレジメを配布する。				
留意点	原則遅刻してこないこと。（期末評価に影響します。） 生理学の内容は解剖学など他の教科にもつながっていく内容が多い。また、前期の授業内容は後期の授業内容のベースとなるので、授業ごとに復習をする習慣を身につけしっかり理解を深める努力をしてください。				

回 数	授業計画
第 1 回	生理学の基礎：生理学とは、人体を構成する要素、ホメオスタシス
第 2 回	生理学の基礎：からだの化学的構成 1
第 3 回	生理学の基礎：からだの化学的構成 2
第 4 回	生理学の基礎：細胞の機能的構造
第 5 回	生理学の基礎：受動輸送、能動輸送、膜動輸送
第 6 回	神経の基本的機能：神経細胞の形態、静止膜電位
第 7 回	神経の基本的機能：活動電位、閾刺激、全か無かの法則
第 8 回	神経の基本的機能：不応期、イオンチャネル
第 9 回	神経の基本的機能：興奮の伝導、複合活動電位
第 10 回	神経の基本的機能：興奮の伝達
第 11 回	筋肉の機能：筋の種類、骨格筋の構造
第 12 回	筋肉の機能：筋収縮のしくみ、筋細胞膜を興奮させるしくみ
第 13 回	筋肉の機能：骨格筋の収縮の仕方、筋肉の長さや張力との関係
第 14 回	筋肉の機能：筋収縮のエネルギー、筋の熱発生、筋電図
第 15 回	筋肉の機能：平滑筋、心筋

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	生理学Ⅲ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	溝口 博之	実務経験	無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な生理学の基礎的知識を修得する。 2年次の柔道整復理論（各論編）を理解するための基礎知識を身につける。				
到達目標	骨の構造・形成、骨の病気について説明することができる。 体液の区分や調整、血液の組成について説明することができる。 免疫機能について説明することができる。 心臓の機能、血圧、リンパ管系について説明することができる。 循環（神経性、体液性、脳脊髄液など）の調節機構について説明することができる。				
成績評価	期末テスト（約 80 点相当）と授業期間中に行う数回の小テスト・出席（約 20 点）とで合否を判断する。				
使用教材	生理学教科者（南江堂） トートラ／佐伯他 訳：人体解剖生理学原書第 10 版（丸善出版、2017 年刊） 坂井他 訳：人体の正常構造と機能第 3 版（日本医事新報社、2017 年刊） 石川他 訳：ガイトン生理学 原著第 13 版（エルゼビア・ジャパン株式会社、2018 年刊）				
留意点	授業内容に関連した問題をだしたり、小テスト、レポート提出を行ったりする。 出席、授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 授業で使った配布資料を復習することもあるので、なるべく持参すること。				

回 数	授業計画
第 1 回	生理学とは；骨の生理：骨の構造
第 2 回	骨の生理：骨の形成過程
第 3 回	骨の生理：骨形成と骨吸収、カルシウムの代謝の調節、骨年齢
第 4 回	血液：血液の成分と組成
第 5 回	血液：止血、
第 6 回	血液：血液型、免疫
第 7 回	循環：心臓の機能的解剖、心筋の電氣的活動
第 8 回	循環：心電図
第 9 回	循環：心臓の活動周期
第 10 回	循環：各血管の構造と働き
第 11 回	循環：血圧、リンパ管系
第 12 回	循環：循環の神経性調節・体液性調節
第 13 回	循環：循環調節 1
第 14 回	循環：循環調節 2
第 15 回	これまでの復習

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1年	学期	前期
科目名	医療概論	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	福岡 治	実務経験	○・無	時間数	30
学修内容	医療人を志す者であるという自覚と、患者と接する際に必要となる最低限の倫理観やマナーを考える力を養う。				
到達目標	患者との信頼関係を築き、柔道整復業を全うするうえで「やっていいこと」と「やってはいけないこと」の分別がつけられる。				
成績評価	定期試験 100% 授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」 必要に応じてプリントを配布する				
留意点	授業時間内に理解度を確認する時間を設定し、生徒の習熟度に合わせた授業進行を行う。				

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション（学習方法、評価方法等）
第2回	職業倫理① 柔道整復師にもとめられる職業倫理
第3回	職業倫理② 柔道整復師の歴史と業務範囲
第4回	職業倫理③ 施術録の記載方法、保存義務
第5回	職業倫理④ 守秘義務
第6回	職業倫理⑤ 各種ハラスメント
第7回	職業倫理⑥ インフォームドコンセント
第8回	職業倫理⑦ エビデンスに基づく施術
第9回	総復習
第10回	解剖学
第11回	解剖学
第12回	解剖学
第13回	生理学
第14回	生理学
第15回	生理学

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1年生	学 期	前期
科目名	柔道 I A	科目の別	実技	単位数	1
担当教員	西川可一 今尾省司	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な柔道の素養（体力）を身につける。 礼法、受身等の基本的な知識技術を習得する。				
到達目標	柔道を行うための基本的な心構え、体力を身につける。 正しく柔道着を着用することができる。 正しい礼法・受身を身につける。				
成績評価	1、定期試験(60%) 2、小テスト(30%) 3、出席および授業態度(10%) 遅刻、欠席及び授業進行を妨げる迷惑行為に関して減点対象とする。				
使用教材	柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂)				
留意点	礼法、受身、乱取等、日常動作とは異なる動作があるため皆勤が望ましい。 ピアス、指輪、付け爪等は危険なため原則禁止とする。 実技試験は認定実技審査の基本的な事項を基準に行う。				

回 数	授業計画
第1回	オリエンテーション
第2回	後方受身・側方受身①
第3回	後方受身・側方受身② 前方受身
第4回	前方回転受身①
第5回	前方回転受身②
第6回	受身復習
第7回	大腰① 打ち込み
第8回	大腰② 投げ
第9回	体落① 打ち込み
第10回	体落② 投げ
第11回	投げ復習
第12回	投込①
第13回	投込②
第14回	前期授業の復習
第15回	前期授業の復習

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学 総論 I A	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	骨折総論および柔道整復に必要な解剖学的知識（骨・関節）を修得する。				
到達目標	柔道整復術における骨折の総論的知識を身に着ける。 骨・関節の構造についての知識を修得すること。				
成績評価	中間試験 45%、期末試験 55%				
使用教材	柔道整復学・理論編改訂第 7 版（南江堂） 配布プリント				
留意点	基礎的内容をしっかり身に着けるため、出席を常とし講義ごとに復習すること。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション、自己紹介
第 2 回	柔道整復術および柔道整復師の沿革、鎖骨
第 3 回	業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領・肩甲骨
第 4 回	人体に加わる力・上腕骨
第 5 回	中間テスト① 損傷時に加わる力・橈骨
第 6 回	痛みの基礎・尺骨
第 7 回	骨の形態と機能・肩鎖関節と肩関節
第 8 回	骨損傷の概説・肘関節
第 9 回	中間テスト② 骨折の分類（骨の性状、骨損傷の程度）・寛骨
第 10 回	骨折の分類（骨折線の方向、創部との交通、数）・大腿骨
第 11 回	骨折の分類（外力の働き方）・膝蓋骨
第 12 回	骨折の分類（骨折の部位）・脛骨
第 13 回	中間テスト③ 骨折の局所症状（一般外傷症状と固有症状）・腓骨
第 14 回	骨折の転位と変形・股関節
第 15 回	骨折の全身症状・膝関節

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1年	学期	前期
科目名	柔道整復学総論ⅡA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な脱臼・軟部組織損傷の知識を習得する。				
到達目標	脱臼・軟部組織損傷の定義や分類について説明することができる。 関節部および軟部組織の損傷から修復までの過程を説明することができる。				
成績評価	定期試験 100% 著しく授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	柔道整復学（理論編）（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 必要に応じて映像、スライド、レントゲン写真を用いる。				
留意点					

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション（学習方法、評価方法等）
第2回	基本姿勢と関節運動の表示
第3回	関節構成組織（総論）
第4回	関節構成組織（総論）
第5回	関節構成組織（総論）
第6回	関節構成組織（総論）
第7回	関節構成組織の損傷
第8回	関節構成組織の損傷
第9回	関節構成組織の損傷
第10回	関節構成組織の損傷
第11回	関節構成組織の損傷
第12回	関節構成組織の損傷
第13回	脱臼総論
第14回	脱臼総論
第15回	前期総復習

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1年	学期	前期
科目名	柔道整復学 総論ⅢA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	○有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師が施術を行う際に必要な人体の構造と機能の知識を習得する。				
到達目標	内部環境の恒常性について専門用語を用いて説明できる。 神経系・内分泌系について専門用語を用いて説明できる。 骨格筋収縮について専門用語を用いて説明できる。				
成績評価	小テスト、レポート 【20%】 期末試験 【80%】				
使用教材	柔道整復学・理論編（南江堂） 生理学（南江堂） 解剖学（医歯薬出版株式会社）				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回数	授業計画
第1回	内部環境の恒常性
第2回	物質の移動（拡散、浸透、ろ過）
第3回	体内の命令の伝達手段（神経系、内分泌系の比較）
第4回	骨格筋、心筋、神経の静止膜電位
第5回	骨格筋、心筋、神経の活動電位
第6回	感覚受容器の特徴
第7回	骨格筋細胞の構造
第8回	骨格筋収縮の仕組み
第9回	骨格筋の異常
第10回	神経系の特徴
第11回	神経伝導路（遠心性）
第12回	神経伝導路（求心性）
第13回	内部環境の恒常性に対する神経系の役割
第14回	内分泌系の特徴
第15回	内部環境の恒常性に対する内分泌系の役割

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1年	学期	前期
科目名	実技 I A	科目の別	実 習	単位数	1 単位
担当教員	木全 健太郎 爲房 佑輔	実務経験	有	時間数	30 時間
学修内容	包帯固定学の基本を理解し基本的技術を学習する 認定実技試験で行う基礎的技術を学習する 患者さんを想定し愛護的な技術を学習する				
到達目標	基本的な固定法を修得できる 認定実技試験で求められる技術を修得する				
成績評価	授業内に行う実技を評価（実技内容・服装を含む） 出席（無断欠席は10点減点）				
使用教材	包帯固定学（南江堂） 柔道整復学・理論編、実技編（南江堂）				
留意点	授業（授業内で行われる試験含む）に欠席する場合は学校に事前連絡をする 授業内容に適応した服装で必要な実技道具を持参する				

回 数	授業計画
第1回	概説（評価方法の説明、服装・持ち物の説明）固定の目的と固定材料の説明
第2回	巻軸帯の巻き方（注意事項）巻軸帯の巻き戻し
第3回	巻く部位と包帯の裂数の基本 上肢の基本包帯法
第4回	上肢基本包帯法と三角巾
第5回	上肢基本包帯法と三角巾
第6回	上肢基本包帯法の試験（2名の試験管が各々評価を行う・合算で評価とする）
第7回	膝部 X クロステープ（ヒールベース作成含む）
第8回	膝部 X クロステープ（ヒールベース作成含む）
第9回	足関節テーピング（バスケットウィーブとフィギアエイト・ヒールロック）
第10回	足関節テーピング（バスケットウィーブとフィギアエイト・ヒールロック）
第11回	テーピング練習 仮評価（課題の提示）
第12回	テーピングの実技試験（膝と足部の2会場で行う）
第13回	肩関節上行・下行麦穂帯（厚紙副子と三角巾を使用）
第14回	デゾー包帯
第15回	ジュール包帯（左右） ウェルポー包帯（左右）

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1年	学期	前期
科目名	実技ⅡA	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔 福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	臨床現場で使用する指導方法を習得する。				
到達目標	・対象者の状態に合わせた運動指導を選択できるようにする。				
成績評価	定期試験100%				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・アスレチックトレーナー専門科目テキスト（文光堂） ・ストレングス&コンディショニング（大修館書店） 				
留意点	身体を動かす機会が多くなるため、事故防止に留意する。 実技を通じて、医療従事者の素養の習得を目指す。 出席を常とする。				

回数	授業計画
第1回	運動指導の役割
第2回	運動指導の効果測定と評価
第3回	運動指導のPDCAサイクル
第4回	運動指導の注意事項及び計画と実践
第5回	運動指導の注意事項及び計画と実践
第6回	対象者の基礎的状态に対応した運動指導
第7回	ウォームアップとクールダウンについて
第8回	ウォームアップとクールダウンの実践
第9回	運動指導の実際（パワー向上を目的とした運動計画と実践）
第10回	運動指導の実際（パワー向上を目的とした運動計画と実践）
第11回	運動指導の実際（有酸素運動及び無酸素運動の計画と実践）
第12回	運動指導の実際（有酸素運動及び無酸素運動の計画と実践）
第13回	運動指導の実践（スピード向上を目的とした運動計画と実践）
第14回	運動指導の実践（スピード向上を目的とした運動計画と実践）
第15回	運動指導を行うにあたってのリスク管理

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	心理学Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	2
担当教員	八木順子	実務経験	無	時間数	30
学修内容	心理学の視点から人について学びます。 人の発達課題・問題 ②精神疾患 ③コミュニケーション技法				
到達目標	心理学を学ぶことにより、人への深い理解をもつことができるようになる。				
成績評価	試験・提出物・出席等で総合的に評価します。				
使用教材	プリントを配布いたします。				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	性別違和
第 2 回	統合失調症スペクトラム
第 3 回	強迫関連障害
第 4 回	うつ病・双極性障害
第 5 回	パーソナリティ障害
第 6 回	こころの発達Ⅴ（成人期）・物質関連障害及び嗜癖
第 7 回	ドメスティック・バイオレンス・性暴力
第 8 回	外傷後ストレス障害・解離性障害
第 9 回	こころの発達Ⅵ（老年期）・神経認知障害
第 10 回	老い・死・看取り
第 11 回	スポーツ心理学Ⅰ
第 12 回	スポーツ心理学Ⅱ
第 13 回	倫理
第 14 回	コミュニケーション技法Ⅱ
第 15 回	まとめ

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1	学 期	後期
科目名	保健概論Ⅱ	科目の別	講義	単位数	2 単位
担当教員	戸崎 素成	実務経験	有	時間数	30 時間
学修内容	柔道整復師になるのに必要な運動器の名称と機能を体感する 運動機能向上のメカニズムを理解し実践する				
到達目標	主要な骨格筋の名称を理解しトレーニングを通じて体感する 患者さんの指導管理に必要となるトレーニングを体感する				
成績評価	出席 5 0 % 授業内の課題 5 0 %による				
使用教材	競技者の外傷予防 JATI 指導テキスト				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	レジスタンストレーニングの説明
第 2 回	レジスタンストレーニング注意事項
第 3 回	レジスタンストレーニング注意事項
第 4 回	スクワット方法
第 5 回	スクワット各種
第 6 回	パワークリーン方法
第 7 回	パワークリーン各種
第 8 回	ベンチプレス方法
第 9 回	ベンチプレス各種
第 10 回	ジャンプエクササイズ
第 11 回	ジャンプエクササイズ
第 12 回	プライオメトリクス下肢
第 13 回	プライオメトリクス上肢
第 14 回	プライオメトリクス体幹
第 15 回	復習

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1年	学 期	後期
科目名	英語 II	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	牧 祥子	実務経験	無	時間数	30
学修内容	様々な場面での実践的な英会話・リスニング。 簡単な専門用語。				
到達目標	日常会話レベルにおいて、伝えたいことを伝えるための土台としての発音・文法の基礎を身につける。また、英語に対する苦手意識を減らし、英語でのコミュニケーションに対する自信をつける。				
成績評価	定期試験（中間試験 30 点、期末試験 70 点）				
使用教材	プリント等				
留意点	授業に集中し、前向きに取り組んでください。				

回 数	授 業 計 画
第 1 回	文法・英会話・専門用語の英単語（基礎）
第 2 回	文法・英会話・専門用語の英単語（基礎）
第 3 回	文法・英会話・専門用語の英単語（基礎）
第 4 回	文法・英会話・専門用語の英単語（基礎）
第 5 回	文法・英会話・リスニング
第 6 回	文法・英会話・リスニング
第 7 回	文法・英会話・リスニング
第 8 回	文法・英会話・リスニング
第 9 回	中間試験
第 10 回	文法・英会話・英文メール
第 11 回	文法・英会話・英文メール
第 12 回	文法・英会話・英文メール
第 13 回	文法・英会話・英作文
第 14 回	文法・英会話・英作文
第 15 回	文法・英会話・英作文

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科								
		対象学年	1年	学期	後期						
科目名	統計学	科目の別	講義	単位数	2						
担当教員	平松裕紀子	実務経験	無	時間数	30						
学修内容	将来、社会に出ると様々なデータを目にする機会が多々ある。そんな時、それを鵜呑みにしたり、漠然と見たりするのではなく、その数字やグラフから読み取るべきことを見抜く洞察力を養う。										
到達目標	統計の専門用語 平均、メディアン、中央点、モード、分散、標準偏差について説明でき、実際に計算して値を求めることができる。 検定の手順、方法を理解し、場合によっては異なる検定方法を正しく選べるようにする。										
成績評価	<table border="0"> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>毎回のレポート</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>出席点</td> <td>15%</td> </tr> </table>					定期試験	70%	毎回のレポート	15%	出席点	15%
定期試験	70%										
毎回のレポート	15%										
出席点	15%										
使用教材	社会科学系学生のための統計学 佐々木政文著（共立出版株式会社）										
留意点											

回数	授業計画
第1回	第1章 確率統計の基本概念（実力テストを含む）
第2回	第2章 データの処理（Ⅰ）(1)母集団と標本
第3回	〃 (2)データの整理
第4回	〃 (3)データの特性値
第5回	〃 (4)プリント学習
第6回	第5章 連続型分布 (1)正規分布（Ⅰ）
第7回	〃 (2) 〃 (Ⅲ)
第8回	〃 (3)教科書以外の問題
第9回	〃 (4)四分位範囲と箱ひげ図
第10回	〃 (5) 〃
第11回	第10章 検定 (1)検定の手順
第12回	〃 (2)平均の検定
第13回	〃 (3)平均の差の検定
第14回	〃 (4)差の平均の検定
第15回	〃 (5)試験対策プリントで学習

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	解剖学Ⅲ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師として患者に施術を行う上で、必要不可欠な下肢の骨格系および筋系の解剖学的知識を習得する				
到達目標	下肢の骨・筋の構造と機能について、説明することができる 体幹の骨・筋の構造と機能について、説明することができる				
成績評価	定期テスト 100%				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・医歯薬出版） ・コメディカルのための臨床解剖学サブノート ・人体の正常構造と機能（日本医事新報社） ・プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（医学書院） ・骨学のすゝめ（南江堂） 				
留意点	出席を常とする。 積極的に授業に参加させるために、記述を多く行う。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	脊柱
第 3 回	胸郭
第 4 回	腹部の筋
第 5 回	体幹の復習
第 6 回	骨盤
第 7 回	大腿の骨・股関節
第 8 回	骨盤周囲の筋
第 9 回	下腿の骨・膝関節
第 10 回	大腿の筋（前面）
第 11 回	大腿の筋（後面）
第 12 回	骨盤・大腿部の復習
第 13 回	足の骨・距腿関節
第 14 回	下腿の筋
第 15 回	総復習

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1年	学期	後期
科目名	解剖学Ⅳ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	緒方 華	実務経験	有	時間数	30
学修内容	人体の構造をマクロからミクロまで統括的に学び、機能的意義を理解する。				
到達目標	人体構造の系統を把握し、解剖用語によって正確に説明できる。 人体の構成、細胞・組織の特徴、機能的・臨床的意義を学び、他科目での学習に活用できるようになる。				
成績評価	定期試験、小テスト				
使用教材	『コメディカルのための臨床解剖学サブノート』 『解剖学』医歯薬出版株式会社				
留意点					

回数	授業計画
第1回	内分泌系 内分泌臓器
第2回	脈管系 総論
第3回	心臓Ⅰ 位置と形態、構造、弁
第4回	心臓Ⅱ 心壁、心臓の脈管と神経、心膜
第5回	動脈系Ⅰ 大動脈、頭頸部の動脈（1）
第6回	動脈系Ⅱ 頭頸部の動脈（2）
第7回	動脈系Ⅲ 上肢の動脈
第8回	動脈系Ⅳ 胸大動脈、腹大動脈（1）
第9回	動脈系Ⅴ 腹大動脈（2）
第10回	動脈系Ⅵ 骨盤部の動脈、下肢の動脈
第11回	静脈系Ⅰ 上大静脈（1）
第12回	静脈系Ⅱ 上大静脈（2）
第13回	静脈系Ⅲ 下大静脈（1）、門脈
第14回	静脈系Ⅳ 下大静脈（2）
第15回	リンパ系、胎児循環

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1年	学期	後期
科目名	解剖学VI	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	中野 隆	実務経験	無	時間数	30
学修内容	神経系の構造と機能を統括的に学び、その意義を理解する。				
到達目標	神経系の構造を統括的に理解し、解剖学用語によって正確に述べることができる。 神経系の構造と機能を結びつけて説明できる。 神経系、運動器系、感覚器系、内臓系の知識を統合し、説明できる。 画像解剖学と対応させて、神経系の三次元構造を説明できる。				
成績評価	定期試験（100%）				
使用教材	「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」 プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト第2版（医学書院） 機能解剖で斬る神経系疾患 第2版（メディカルプレス） 骨学のすゝめ（南江堂）				
留意点					

回数	授業計画
第1回	中枢神経系の脈管
第2回	中枢神経系の脈管
第3回	中枢神経系の脈管
第4回	伝導路
第5回	伝導路
第6回	伝導路
第7回	伝導路
第8回	伝導路
第9回	脳神経
第10回	脳神経
第11回	脳神経
第12回	脊髄神経
第13回	脊髄神経
第14回	脊髄神経
第15回	脊髄神経

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	生理学Ⅱ	科目の別	講義	単位数	1 単位
担当教員	小野 健治	実務経験	無	時間数	30 時間
学修内容	生体内において神経回路がどのようにはりめぐらされ、体内の機能をどのようにコントロールしているのかを理解し、他人に説明できる程度の知識を養う。				
到達目標	<p>中枢神経系と末梢神経系の機能と相違について説明することができる。</p> <p>体性神経系と自律神経系の神経回路と機能について説明することができる。</p> <p>神経回路の単なる繋がり方だけではなく、神経回路網を介した脳や脊髄部位ごとの機能的な役割や機序について理解する。</p>				
成績評価	<p>定期試験で評価する。</p> <p>定期試験は、後期授業内容の全範囲から出題する。</p>				
使用教材	<p>生理学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂</p> <p>トートラ人体の構造と機能 丸善出版</p> <p>授業はスライドを用いて行い、授業時にはスライドを印刷したレジメを配布する。</p>				
留意点	<p>原則遅刻してこないこと。（期末評価に影響します。）</p> <p>前期と比べると授業内容が多く複雑になっていくので、授業ごとに必ず復習を行ってください。後期内容の理解には前期内容の理解が必須ですので、必要に応じて前期内容も復習してください。</p>				

回 数	授業計画
第 1 回	神経系の機能：神経系の成り立ち 1
第 2 回	神経系の機能：神経系の成り立ち 2
第 3 回	神経系の機能：内蔵機能調節 1
第 4 回	神経系の機能：内蔵機能調節 2
第 5 回	神経系の機能：姿勢と運動の調節 1
第 6 回	神経系の機能：姿勢と運動の調節 2
第 7 回	神経系の機能：姿勢と運動の調節 3
第 8 回	神経系の機能：姿勢と運動の調節 4
第 9 回	神経系の機能：高次機能 1
第 10 回	神経系の機能：高次機能 2
第 11 回	感覚の生理学：感覚の種類、感覚の一般的性質
第 12 回	感覚の生理学：体性感覚
第 13 回	感覚の生理学：内臓感覚、嗅覚、味覚
第 14 回	感覚の生理学：聴覚、前庭感覚
第 15 回	感覚の生理学：視覚

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1年	学期	後期
科目名	生理学Ⅳ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	溝口 博之	実務経験	無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な生理学の基礎的知識を修得する。 2年次の柔道整復理論（各論編）を理解するための基礎知識を身につける。				
到達目標	呼吸器の生理機能について説明することができる。各種のエネルギー代謝について説明することができる。体温の調節機構、熱放散の仕組みなどについて説明することができる。消化器系の働き、消化液分泌の分泌機序について説明することができる。糖質・蛋白質・脂質の消化、吸収、肝臓の働きについて説明することができる。				
成績評価	期末テスト（約80点相当）と授業期間中に行う数回の小テスト・出席（約20点）とで可否を判断する。				
使用教材	生理学教科者（南江堂） トートラ／佐伯他 訳：人体解剖生理学原書第10版（丸善出版、2017年刊） 坂井他 訳：人体の正常構造と機能第3版（日本医事新報社、2017年刊） 石川他 訳：ガイトン生理学 原著第13版（エルゼビア・ジャパン株式会社、2018年刊）				
留意点	授業内容に関連した問題をだしたり、小テスト、レポート提出を行ったりする。 出席、授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 授業で使った配布資料を復習することもあるので、なるべく持参すること。				

回数	授業計画
第1回	呼吸器の機能的構造
第2回	換気の仕組み、内圧の変化
第3回	換気量、呼吸のための仕事、ガス交換
第4回	血液の酸素の運搬、二酸化炭素の運搬
第5回	呼吸を調節する仕組み、呼吸の異常、特殊環境下の呼吸
第6回	生体の構成成分と栄養素、高エネルギーリン酸化合物
第7回	吸収期の代謝、空腹期の代謝
第8回	中間代謝の調節、エネルギー代謝量の測定、各種のエネルギー代謝、エネルギー所要量
第9回	体温、体温の生理的変動、体内における熱の産生
第10回	熱放散の物理的仕組み、熱放散を調節する仕組み、体温の調節、うつ熱と発熱、気候順化
第11回	消化器系の働き、消化管の運動とその調節
第12回	消化液分泌の神経性機序と体液性機序、胃液の分泌機序
第13回	糖質・蛋白質・脂質の消化、吸収
第14回	消化管ホルモン、肝臓の働き、胆道系の働き
第15回	これまでの復習

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1年生	学 期	後期
科目名	柔道 I B	科目の別	実技	単位数	1
担当教員	西川可一 今尾省司	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な柔道の素養（体力）を身につける。 礼法、受身等の知識技術を習得する。 約束乱取ができる技術体力を身につける。				
到達目標	礼法が自然にできる。 投げられても安全な受身ができる。 正しい投げ技（安全）で投げることができる。 柔道の歴史、意義を説明できる。				
成績評価	1、定期試験(60%) 2、小テスト(30%) 3、出席および授業態度(10%) 遅刻、欠席及び授業進行を妨げる迷惑行為に関して減点対象とする。				
使用教材	柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂)				
留意点	礼法、受身、乱取等、日常動作とは異なる動作があるため皆勤が望ましい。 ピアス、指輪、付け爪等は危険なため禁止とする。 実技試験は認定実技審査を基準に行う。				

回 数	授業計画
第1回	前期復習
第2回	出足払い
第3回	出足払い②
第4回	小内刈り
第5回	小内刈り②
第6回	大内刈り
第7回	大内刈り②
第8回	連続技
第9回	連続技②
第10回	連続技③
第11回	約束乱取
第12回	約束乱取②
第13回	約束乱取③
第14回	後期授業の復習
第15回	後期授業の復習

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復学 総論 I B	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復における骨折の総論的な知識を修得する。				
到達目標	骨折の臨床症状が理解できること。 柔道整復学の各論に必要な解剖学的知識を習得すること。				
成績評価	中間試験 45% 期末試験 55%				
使用教材	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂）				
留意点	基礎的内容が多いため、出席を常とし講義ごとに復習すること。				

回 数	授業計画
第 1 回	骨折の全身症状
第 2 回	骨折の併発症（狭義の合併症）
第 3 回	骨折の続発症①
第 4 回	骨折の続発症②
第 5 回	中間テスト① 骨折の後遺症①
第 6 回	骨折の後遺症②
第 7 回	骨折の後遺症③
第 8 回	小児骨折
第 9 回	中間テスト②高齢者骨折
第 10 回	骨折の癒合日数
第 11 回	骨折の治癒経過
第 12 回	骨折の予後
第 13 回	中間テスト③ 骨折の治癒に影響を与える因子
第 14 回	骨折の整復法
第 15 回	骨折の治療法

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1年	学期	後期
科目名	柔道整復学総論ⅡB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な脱臼・軟部組織損傷の知識を習得する。				
到達目標	脱臼・軟部組織損傷の定義や分類について説明することができる。 関節部および軟部組織の損傷から修復までの過程を説明することができる。				
成績評価	定期試験 100% 著しく授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	柔道整復学（理論編）（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 必要に応じて映像、スライド、レントゲン写真を用いる。				
留意点					

回数	授業計画
第1回	脱臼総論
第2回	脱臼総論
第3回	筋損傷
第4回	筋損傷、皮膚の損傷
第5回	末梢神経損傷
第6回	末梢神経損傷
第7回	血管損傷
第8回	血管損傷
第9回	診察（医療面接等）
第10回	診察（医療面接等）
第11回	診察（医療面接等）
第12回	治療法（施術における留意点等）
第13回	治療法（施術における留意点等）
第14回	治療法（施術における留意点等）
第15回	後期総復習

2024年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1年	学期	後期
科目名	柔道整復学 総論ⅢB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師が施術を行う際に必要な人体の構造と機能の知識を習得する。				
到達目標	各器官における神経系の役割について専門用語を用いて説明できる。 各器官における内分泌系の役割について専門用語を用いて説明できる。 人体を観察し骨・筋の名称について専門用語を用いて説明できる。				
成績評価	小テスト、レポート【20%】 期末試験【80%】				
使用教材	柔道整復学・理論編（南江堂） 生理学（南江堂） 解剖学（医歯薬出版株式会社）				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回数	授業計画
第1回	循環器系に対する神経系の役割 【筋・骨格小テスト】
第2回	循環器系に対する内分泌系の役割 【筋・骨格小テスト】
第3回	呼吸器系に対する神経系の役割 【筋・骨格小テスト】
第4回	呼吸器系に対する内分泌系の役割 【筋・骨格小テスト】
第5回	消化器系に対する神経系の役割 【筋・骨格小テスト】
第6回	消化器系に対する内分泌系の役割 【筋・骨格小テスト】
第7回	泌尿器系に対する神経系の役割 【筋・骨格小テスト】
第8回	泌尿器系に対する内分泌系の役割 【筋・骨格小テスト】
第9回	体温調節における神経系の役割 【筋・骨格小テスト】
第10回	体温調節における内分泌系の役割 【筋・骨格小テスト】
第11回	肩甲帯・上腕の体表解剖
第12回	前腕・手部の体表解剖
第13回	股関節・大腿の体表解剖
第14回	膝関節・足部の体表解剖
第15回	エコーによる観察

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1 年	学 期	後 期
科目名	実技 I B	科目の別	実 習	単位数	1 単位
担当教員	木全 健太郎 爲房 佑輔	実務経験	有	時間数	3 0 時間
学修内容	包帯固定学の基本を理解し基本的技術を学習する 認定実技試験で行う基礎的技術を学習する 患者さんを想定し愛護的な技術を学習する				
到達目標	基本的な固定法を修得できる 認定実技試験で求められる技術を修得する				
成績評価	授業内に行う実技を評価（実技内容・服装を含む） 出席（無断欠席は 10 点減点）				
使用教材	包帯固定学（南江堂） 柔道整復学・理論編、実技編（南江堂）				
留意点	授業（授業内で行われる試験含む）に欠席する場合は学校に事前連絡をする 授業内容に適応した服装で必要な実技道具を持参する				

回 数	授業計画
第 1 回	上肢基本包帯総復習
第 2 回	肩関節上行・下行麦穂帯（厚紙副子と三角巾を使用）
第 3 回	下肢基本包帯
第 4 回	下肢基本包帯
第 5 回	足関節基本包帯法（厚紙副子を使用）
第 6 回	足関節基本包帯法（厚紙副子を使用）
第 7 回	下肢・足関節基本包帯法の実技試験（膝と足部の 2 会場で行う）
第 8 回	クラーメル副子を使用した上肢基本包帯法
第 9 回	クラーメル副子を使用した下肢基本包帯法
第 10 回	クラーメル副子を使用した包帯法の練習 仮評価（課題の提示）
第 11 回	クラーメル副子を使用した包帯法実技試験（膝と足部の 2 会場で行う）
第 12 回	晒（さらし）固定 厚紙副子・吊り紐・綿花を使用
第 13 回	上肢に対する包帯法及びテーピング
第 14 回	下肢に対する包帯法及びテーピング
第 15 回	総合復習

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	1年	学期	後期
科目名	実技ⅡB	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔 福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	臨床現場で使用する指導方法を習得する。				
到達目標	・対象者の状態に合わせた運動指導を選択できるようにする。				
成績評価	定期試験100%				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・アスレチックトレーナー専門科目テキスト（文光堂） ・ストレングス&コンディショニング（大修館書店） 				
留意点	身体を動かす機会が多くなるため、事故防止に留意する。 実技を通じて、医療従事者の素養の習得を目指す。 出席を常とする。				

回数	授業計画
第1回	運動指導の為の倫理及び活用実践
第2回	傷病者評価
第3回	BLS (Basic Life Support)
第4回	固定法（包帯・テーピング等）
第5回	固定法（包帯・テーピング等）
第6回	固定法（包帯・テーピング等）
第7回	固定法（包帯・テーピング等）
第8回	固定法（包帯・テーピング等）
第9回	固定法（包帯・テーピング等）
第10回	固定法（包帯・テーピング等）
第11回	固定法（包帯・テーピング等）
第12回	固定法（包帯・テーピング等）
第13回	固定法（包帯・テーピング等）
第14回	固定法（包帯・テーピング等）
第15回	総復習

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	前期
科目名	生理学Ⅴ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	溝口 博之	実務経験	有・ 無	時間数	30
学修内容	腎の機能と尿の生成、内分泌腺の機能、生殖器の役割について、その重要性の上から基本事項を修得し、機能発現のシステムを理解する。				
到達目標	国家試験合格水準を単位取得のラインとし、最低線の目標とする。器官・組織の関係性から人体の機能を論理的に解釈し、病理学や、臨床医学へ繋げる。				
成績評価	期末テスト（約80点相当）と授業期間中に行う数回の小テスト・出席（約20点）とで可否を判断する。				
使用教材	生理学教科者（南江堂） トートラ／佐伯他 訳：人体解剖生理学原書第10版（丸善出版、2017年刊） 坂井他 訳：人体の正常構造と機能第3版（日本医事新報社、2017年刊） 石川他 訳：ガイトン生理学 原著第13版（エルゼビア・ジャパン株式会社、2018年刊）				
留意点	授業内容に関連した問題をだしたり、小テスト、レポート提出を行ったりする。 出席、授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 授業で使った配布資料を復習することもあるので、なるべく持参すること。				

回数	授業計画
第1回	生理学基礎（物質の移動、体液の区分、pH）、ホルモン、ホメオスタシス
第2回	尿の生成と排泄：腎臓の作用、糸球体ろ過量
第3回	尿の生成と排泄：尿細管・集合管の特徴、クリアランス、pH調節、
第4回	尿の生成と排泄：腎血流量、排尿
第5回	尿の生成と排泄：腎臓による体液の調節
第6回	内分泌：ホルモンの特性、分類、受容体、視床下部-下垂体系
第7回	内分泌：甲状腺ホルモン
第8回	内分泌：副腎皮質ホルモン
第9回	内分泌：副腎髄質ホルモン
第10回	内分泌：膵臓のホルモン
第11回	生殖：性分化、生殖器
第12回	生殖：性周期
第13回	生殖：生殖器系のホルモン
第14回	生殖：妊娠、胎盤
第15回	全範囲復習

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学 期	前 期
科目名	運動学 I	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	鵜飼建志	実務経験	有	時間数	30
学修内容	解剖学、生理学が人の運動にどのように影響してくるかを知る。人間の正常な運動を知り、異常な運動を理解し、改善のために必要ない要素（運動療法）を理解できるようにする。教科書を中心に講義を進めるが、臨床力をつけるための補足説明も加える。				
到達目標	<p>「運動学」の概要を知り、人の運動を構成する構造と機能を理解する。</p> <p>各関節の構造、機能、筋の作用などを理解し説明できるようにする。</p> <p>運動学の講義を通し、柔道整復師にとって必要な患者を治すために最低限必要である正常な人の動きをイメージできるようにする。</p>				
成績評価	定期試験の結果 90%（小テストを行った場合はここに加味する） 出席状況 10% 受講態度が悪いなど将来の患者に不利益を生じる可能性が高い、と判断した場合は警告し、反省・改善が見られなければ減点対象とする。				
使用教材	運動学（改訂第3版）：公益社団法人全国柔道整復学校協会 監修：医歯薬出版株式会社				
留意点	講義態度は、医療人としての責任感・倫理観について重視する。 再三再四の指導にも講義態度に改善が見られない場合には、定期試験を待たずに単位を認めない場合もある。定期試験の成績によっては再試験が受けられない可能性がある。				

回 数	授 業 計 画
第 1 回	1. 運動学の目的 2. 運動の表し方
第 2 回	3. 身体運動と力学 A. ベクトル、B. てこ など
第 3 回	3. 身体運動と力学 C. 運動の法則、 D. 仕事と力学的エネルギー
第 4 回	4. 運動器の構造と機能 A. 骨 B. 関節
第 5 回	4. 運動器の構造と機能 C. 骨格筋
第 6 回	5. 神経の構造と機能 A. 神経細胞 B. 末梢神経
第 7 回	5. 神経の構造と機能 C. 中枢神経
第 8 回	6. 運動感覚
第 9 回	7. 反射と随意運動 A. 反射
第 10 回	7. 反射と随意運動 B. 随意運動
第 11 回	8. 四肢と体幹の運動 A. 上肢帯
第 12 回	8. 四肢と体幹の運動 B. 肩関節
第 13 回	8. 四肢と体幹の運動 C. 肘と前腕
第 14 回	8. 四肢と体幹の運動 D. 手関節と手
第 15 回	8. 四肢と体幹の運動 E. 股関節

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	前期
科目名	病理学概論 I	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	楠本 高紀	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な病理学の知識を修得する。 疾病の本態を探求する病理学の概念を知り、疾病の発生機序と分類、それによってもたらされる病態の概要を学ぶ。				
到達目標	疾病に関する知識を深め、疾病の経過、予後、転帰を理解する。 細胞障害、循環障害、進行性病変、炎症の理解を深める。				
成績評価	定期試験、出席率、態度などを勘案して評価する。				
使用教材	病理学概論：公益社団法人全国柔道整復学校協会版（医歯薬出版） 授業時の配布資料				
留意点	出席率の評価は本校の生徒便覧の記載に準拠するが、授業については全出席すること基本と思慮するため、欠席しがちの生徒には指導するので心がけておくこと。				

回数	授業計画
第1回	ガイダンス・病理学概論
第2回	疾病の一般
第3回	退行性病変（1）
第4回	退行性病変（2）
第5回	代謝障害（1）
第6回	代謝障害（2）
第7回	進行性病変（1）
第8回	進行性病変（2）
第9回	細胞、組織の適応（1）
第10回	細胞、組織の適応（2）
第11回	炎症総論（1）
第12回	炎症総論（2）
第13回	まとめ
第14回	炎症各論（1）
第15回	炎症各論（2）

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	前期
科目名	一般臨床Ⅰ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	楠本 高紀	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な診察の基本を修得することができる。				
到達目標	1. 各診察の方法とその意義を修得することができる。 2. 症状・所見から柔道整復師が臨床現場で注意しなければならない事項を修得することができる。				
成績評価	定期試験、出席率、態度などを勘案して評価する。				
使用教材	一般臨床医学：公益社団法人全国柔道整復学校協会版（南江堂） 授業時の配布資料				
留意点	出席率の評価は本校の生徒便覧の記載に準拠するが、授業については全出席すること基本と思慮するため、欠席しがちの生徒には指導するので心がけておくこと。				

回数	授業計画
第1回	ガイダンス、年間予定発表、診察概論（診察の意義、診察の進め方）
第2回	診察各論（医療面接、視診①）
第3回	〃（視診②）
第4回	〃（視診③）
第5回	〃（視診④）
第6回	〃（視診⑤）
第7回	〃（視診⑥）
第8回	〃（視診⑦）
第9回	〃（打診・聴診①）
第10回	〃（打診・聴診②）
第11回	〃（触診①）
第12回	〃（触診②）
第13回	〃（生命徴候）
第14回	〃（感覚検査）
第15回	〃（反射検査）

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	前期
科目名	整形外科概論 I	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	皿袋 良直	実務経験	無	時間数	30
学修内容	整形外科の基礎知識を習得する。 将来、柔道整復の施術に応用可能な技術の理論的背景を理解する。				
到達目標	疾患や手術についての的確に説明できる。 さらに、メディアやネットの医療に関する情報に対して医学的に検証し、 偏見や独善的仮説を排除する姿勢を養う。				
成績評価	定期試験：4 択試験、80 点満点、 日常「おさらい問題」得点（最高 20 点）を併せて 60 点以上の得点で単位認定				
使用教材	整形外科：南江堂 柔道整復学 理論編：南江堂				
留意点					

回数	授業計画
第 1 回	骨の基礎知識
第 2 回	リモデリング ビタミン D 骨軟化
第 3 回	骨粗鬆症
第 4 回	骨折治癒過程・合併症
第 5 回	骨髄炎・骨腫瘍
第 6 回	系統的骨疾患
第 7 回	関節の基礎知識
第 8 回	関節の感染症 結核性関節炎
第 9 回	関節リウマチ： 病態・診断・治療法
第 10 回	変形性関節症 1
第 11 回	変形性関節症 2
第 12 回	骨端症・循環障害 非感染性関節疾患
第 13 回	発育性股関節形成不全・離断性骨軟骨炎
第 14 回	骨格異常足趾の変形
第 15 回	遺伝の話題

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	前期
科目名	リハビリテーション概論Ⅰ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	鵜飼建志	実務経験	有	時間数	30
学修内容	リハビリテーションの一分野である「リハビリテーション医学」の概要を知る。主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について学ぶ。教科書を中心に講義を進めるが、より理解を深め、臨床力をつけるための補足説明も加える。				
到達目標	リハビリテーション医学の概要、治療対象を知る。主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について説明できる。講義を通し、柔道整復師にとって必要な医療人としての一般常識、専門知識の基礎、倫理観などを知る。				
成績評価	定期試験の結果 90%（小テストを行った場合はここに加味する） 出席状況 10% 受講態度が悪いなど将来の患者に不利益を生じる可能性が高い、と判断した場合は警告し、反省・改善が見られなければ減点対象とする。				
使用教材	リハビリテーション医学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	講義態度は、医療人としての責任感・倫理観について重視する。 再三再四の指導にも講義態度に改善が見られない場合には、定期試験を待たずに単位を認めない場合もある。定期試験の成績によっては再試験が受けられない可能性がある。				

回数	授業計画
第1回	講義概要、リハビリテーションの概念
第2回	リハビリテーション医学
第3回	リハビリテーション医学の基礎医学（運動学と機能解剖）
第4回	リハビリテーション医学の基礎医学（運動学と機能解剖）
第5回	リハビリテーション医学の基礎医学（障害学）
第6回	リハビリテーション医学の基礎医学（治療学）
第7回	リハ医学の評価と診断（A. 患者の捉え方、B. 身体計測）
第8回	リハ医学の評価と診断（C. 関節可動域測定法～）
第9回	リハ医学の評価と診断（D. E. F）
第10回	リハ医学の評価と診断（G. 小児の評価法、H. 協調性テスト）
第11回	リハ医学の評価と診断（H. 失認と失行の評価法、J. 心理評価）
第12回	リハ医学の評価と診断（K. L. M）
第13回	リハビリテーションの治療（A 理学療法-1 運動療法）
第14回	リハビリテーションの治療（A-2 物理療法）
第15回	リハビリテーションの治療（A-3 牽引、マッサージ他）

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	前期
科目名	柔道ⅡA	科目の別	実技	単位数	1
担当教員	丹羽 十堂 今尾 省司 一柳 成美	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道の礼法、受身、寝技、立技の習熟 柔道の歴史を知る				
到達目標	認定実技採点基準に準じた礼法、受け身を行うことができる。 十分な速度、勢いのある約束乱取り、乱取を行うことができる。 基本的な柔道に関する歴史・ルールを説明することができる。				
成績評価	1. 定期試験(70%) 2. 筆記試験(20%) 3. 出席及び授業態度(10%) ・実技試験を受けることが出来ない者は、別途口頭と筆記試験を行う。評価は総合的 (通常試験を受けた者に不利益がないように)に判断する。 ・遅刻、欠席及び授業進行を妨げる迷惑行為に関して減点対象とする。				
使用教材	柔道(公益社団法人全国柔道整復学校協会・公益社団法人 講道館 鮫島元就 監修)				
留意点	礼法、受身等、日常動作とは異なる動作があるため皆勤が望ましい。 ピアス、指輪、付け爪等は危険なため原則禁止とする。 実技試験は認定実技審査の基本的な事項を基準に行う。 見学者は授業中にレポートを書いて提出することにより出席とする。				

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション
第2回	1年生の復習
第3回	1年生の復習
第4回	技の講義 送足払
第5回	技の講義 小内刈
第6回	技の講義 大内刈
第7回	技の講義 支釣込足
第8回	技の講義 大腰
第9回	技の講義 体落
第10回	技の講義 払腰
第11回	立技 打込・投込の練習・筆記試験説明①
第12回	立技 打込・投込の練習・筆記試験説明②
第13回	実技試験説明・練習
第14回	実技試験・筆記試験
第15回	実技・筆記試験解説
第16回	柔道の技(立技、寝技)やルールについての説明、紹介

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	前期
科目名	柔道整復学 演習 I	科目の別	演習	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な人体の機能について修得する。				
到達目標	病理学・一般臨床医学を理解するために必要となる人体の正常な機能を理解する。				
成績評価	期末試験【100%】				
使用教材	柔道整復学・理論編（南江堂） 生理学（南江堂） 解剖学（医歯薬出版株式会社）				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回数	授業計画
第1回	物質の移動（拡散、浸透、ろ過）、細胞内液と細胞外液の特徴
第2回	静止膜電位と活動電位
第3回	上行性伝導路と下行性伝導路
第4回	自律神経系
第5回	血液の役割、血液の組成
第6回	免疫機能（免疫系器官、免疫性細胞）
第7回	自然免疫と獲得免疫の特徴
第8回	心臓の構造
第9回	心電図
第10回	心周期
第11回	血圧調節
第12回	呼吸器の基本的構造
第13回	換気のしくみ
第14回	酸素運搬と二酸化炭素運搬
第15回	呼吸調節のしくみ

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2 学年	学 期	前期
科目名	外傷保存	科目の別	講義	単位数	1 単位
担当教員	戸崎	実務経験	有	時間数	15 時間
学修内容	・外傷に対する知識を習得する。				
到達目標	・外傷の発生要因を理解し、それに対しての予防法を発案できるようにする ・目的を持った適切なアプローチができるようにする。				
成績評価	定期テスト 100%				
使用教材	柔道整復学・理論編 改訂 7 版 (南江堂) 柔道整復学・実技編 改訂 2 版 (南江堂)				
留意点	臨床に出た際に直結する内容であるため、常に医療従事者としての行動・気配りを意識させ、現場に出た際の注意点を常に意識させながら授業を進める。				

回 数	授業計画
第 1 回	ガイダンス 徒手整復施行時の配慮
第 2 回	骨折の整復法
第 3 回	脱臼の整復法
第 4 回	軟部組織損傷の処置
第 5 回	固定法
第 6 回	後療法
第 7 回	外傷予防 運動機能向上と教育活動
第 8 回	外傷予防 早期発見、早期治療
第 9 回	
第 10 回	
第 11 回	
第 12 回	
第 13 回	
第 14 回	
第 15 回	

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学 期	前期
科目名	柔整各論 I A	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	伊藤 和己	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な理論、頭部から鎖骨部・肩甲帯損傷の知識を習得する 臨床現場で施術にあたるための基礎知識の習得				
到達目標	頭部・顔面部・鎖骨・肩甲骨損傷の定義分類について説明できる また、評価判定・施療・管理指導について説明が出来るようになる				
成績評価	1. 授業態度および小実技テスト（理解などを総合的な評価） 2. 出席日数 ※配点比率は、1=100%、2==欠席1コマにつき-5点とする 内職も-2点とし3回以降は毎回-5点とする				
使用教材	・柔道整復学 理論編、実技編、包帯固定学 ・映像・画像（含むインターネット）				
留意点	柔道整復師に必要な基本的知識の習得 頭部・顔面部・肩甲帯部の各種の損傷に各種の評価・施療が出来る事。 接骨院実習で使える様になる事				

回 数	授業計画	
第1回	オリエンテーション 頭部顔面部 骨解剖	
第2回	・頭部顔面部 損傷 概説	
第3回	・顎部損傷 概説	
第4回	全上	
第5回	全上	
第6回	鎖骨・肩甲骨 解剖おさらい	
第7回	・肩甲上腕関節脱臼 概説	
第8回	全上	
第9回	・肩鎖・胸鎖関節脱臼 概説	
第10回	全上	
第11回	・鎖骨骨折 概説	
第12回	全上	
第13回	全上	
第14回	・肩甲骨骨折 概説	7/16 定期試験
第15回	全上	

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学 期	前期
科目名	柔道整復学 各論ⅡA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	肘関節部から指先までの骨折・脱臼・軟部組織損傷に対して、発生機序・整復法・固定法を理解し修得する				
到達目標	各損傷を理解し説明できる 各部位における鑑別診断とその指導管理について説明できる				
成績評価	定期試験 100%				
使用教材	柔道整復学【理論編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 柔道整復学【実技編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂）				
留意点	*神経損傷の章については各論ⅠA・ⅠBで行う				

回 数	授 業 計 画
第 1 回	肘関節部の機能解剖
第 2 回	上腕骨遠位部の骨折（顆上骨折）
第 3 回	上腕骨遠位部の骨折（外顆骨折、内側上顆骨折）
第 4 回	前腕骨近位部の骨折（橈骨近位端骨折、肘頭骨折）
第 5 回	肘関節脱臼（前腕両骨脱臼）
第 6 回	肘関節脱臼（前腕両骨後方脱臼、整復法、固定法）実技含む
第 7 回	肘関節脱臼（橈骨頭単独脱臼、肘内障）実技含む
第 8 回	肘関節部の軟部組織損傷（靭帯損傷、野球肘、テニス肘など）
第 9 回	前腕部の機能解剖
第 10 回	前腕骨骨幹部骨折（橈骨骨幹部骨折、ガレアジ骨折、尺骨骨幹部骨折）
第 11 回	前腕骨幹部骨折（モンテギア骨折、前腕両骨骨幹部骨折）
第 12 回	前腕部の軟部組織損傷（コンパートメント症候群、腱交叉症候群）
第 13 回	手関節部の機能解剖
第 14 回	前腕遠位部の骨折（コーレス骨折、スミス骨折）
第 15 回	前腕遠位部の骨折（バートン骨折、ショーファー骨折、骨端線離開）

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	前期
科目名	柔道整復学 各論ⅢA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	太田康晴	実務経験	①・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な柔道整復理論と実技の知識や技術を修得する。 骨折・脱臼・軟部組織損傷に関して系統的に学習する。				
到達目標	体幹部の骨折・脱臼の定義、分類について説明することができる。 骨折・脱臼の鑑別、合併症、軟部組織損傷など臨床現場における判断基準について説明することができる。 骨折・脱臼・軟部組織損傷の症状、治療法、指導管理について説明することができる。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	柔道整復学（理論編）（実技編）：南江堂				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回数	授業計画
第1回	肋骨骨折、肋軟骨骨折
第2回	肋骨骨折の整復法・固定法
第3回	大腿部の軟部組織損傷
第4回	大腿部の軟部組織損傷の検査法
第5回	頸部の構造
第6回	外傷性頸部症候群（むち打ち損傷）
第7回	胸郭出口症候群、寝違え
第8回	頸部の検査法（ジャクソンテスト、スパーリングテスト、肩引き下げテスト）
第9回	頸部の検査法（イートンテスト、アドソンテスト、モーレイテスト、エデンテスト、ライトテスト、ルーステスト）
第10回	股関節の構造
第11回	鼠径部痛症候群、股関節唇損傷
第12回	弾発股（ばね股）
第13回	梨状筋症候群
第14回	股関節外転位拘縮・内転位拘縮・屈曲位拘縮
第15回	大腿骨頭すべり症、ペルテス病

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	前期
科目名	柔道整復学 各論IVA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	鈴木 聖子	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復学における膝関節周囲の疾患について、疫学・発生機序・症状・治療法の理論を修得する。				
到達目標	柔道整復学における膝関節周囲の疾患について正しく理解し、説明できること。				
成績評価	中間試験 30% 期末試験 70%				
使用教材	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 標準整形外科学（南江堂）				
留意点	出席を常とし、こまめな復習を心がけること。				

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション・膝関節の解剖と機能
第2回	膝関節部の軟部組織損傷（半月板損傷）
第3回	膝関節部の軟部組織損傷（側副靭帯損傷）
第4回	膝関節部の軟部組織損傷（十字靭帯損傷）
第5回	膝関節部の軟部組織損傷の検査法実技
第6回	膝関節側副靭帯損傷のXサポートテープ実技とエコー観察
第7回	中間試験（膝関節部の軟部組織損傷・検査法および固定法実技を含む）
第8回	大腿骨遠位端部骨折
第9回	膝蓋骨骨折・膝蓋骨脱臼・膝関節脱臼
第10回	下腿骨近位端部骨折
第11回	発育期の膝関節障害
第12回	膝関節のスポーツ障害
第13回	膝蓋大腿関節障害
第14回	膝周囲の関節包、滑液包の異常・神経の障害
第15回	注意すべき疾患（骨肉腫・関節リウマチなど）

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2 学年	学 期	前期
科目名	物理療法	科目の別	講義	単位数	1 単位
担当教員	戸崎	実務経験	有	時間数	15 時間
学修内容	・実際の現場で行われる物理療法の知識を習得し、疾病に合わせた物理療法の選択や、アプローチ方法を習得する。				
到達目標	・物理療法の効果を患者に説明できるようにする。 ・目的を持った適切なアプローチができるようにする。				
成績評価	定期テスト100%				
使用教材	柔道整復学・理論編 改訂7版（南江堂） 自校にある物理療法機器				
留意点	臨床に出た際に直結する内容であるため、常に医療従事者としての行動・気配りを意識させ、現場に出た際の注意点を常に意識させながら授業を進める。				

回 数	授業計画
第 1 回	物理療法の分類・安全対策
第 2 回	電気療法
第 3 回	低周波電気刺激療法（効果・使用上の注意）
第 4 回	中周波電流療法（効果・使用上の注意）
第 5 回	温熱療法（適応と効果・使用上の注意と禁忌）
第 6 回	変換熱療法（適応と効果・使用上の注意と禁忌）
第 7 回	寒冷療法（適応と効果・使用上の注意と禁忌）
第 8 回	牽引療法（適応と効果・使用上の注意と禁忌）
第 9 回	
第 10 回	
第 11 回	
第 12 回	
第 13 回	
第 14 回	
第 15 回	

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	前期
科目名	実技ⅢA	科目の別	実習	単位数	1単位
担当教員	木全 健太郎、爲房 佑輔	実務経験	有	時間数	30時間
学修内容	認定実技の審査項目を中心に整復、検査、固定の実技を学習する				
到達目標	各種損傷に対する整復法、検査法、固定法が正確にできること。 損傷部のエコー観察				
成績評価	中間試験 50%、期末試験 50%としそれぞれ 30%以上の得点で合格とする。				
使用教材	柔道整復学・理論編、実技編（南江堂） 各種実技教材				
留意点	医療を学ぶ姿勢で取り組むこと				

回数	授業計画
第1回	ガイダンス、授業の進め方、評価法の説明
第2回	鎖骨骨折の診察と整復法
第3回	肩鎖関節上方脱臼の診察と整復法
第4回	上腕骨外科頸外転型骨折の診察と整復法
第5回	肩関節前方脱臼の診察と整復法（ヒポクラテス法）
第6回	肩関節前方脱臼の整復法（コッヘル法、その他）
第7回	肘関節脱臼・肘内障の診察と整復法
第8回	中間テスト
第9回	鎖骨骨折の固定法
第10回	肩鎖関節上方脱臼の固定法
第11回	肩関節前方脱臼の固定法
第12回	上腕骨骨幹部骨折の固定法
第13回	肘関節後方脱臼の固定法
第14回	コーレス骨折の固定法
第15回	期末テスト

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	前期
科目名	臨床入門 I	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	上肢（肩関節、肘関節、手関節）の体表触察、関節可動域測定、徒手筋力検査、各種理学所見のとり方（腱反射など）、エコー画像の描出法を修得する。 医療面接の基本を修得する。				
到達目標	临床上よく遭遇する上肢の疾患について、見て（診て）、触って、動かして評価できること。 臨床実習を行う前段階として、患者に接する基本的姿勢を身に付けること。				
成績評価	中間試験 30% 期末試験 70%				
使用教材	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂）				
留意点	出席を常とし、理論に基づいた実技の修得を心がけること。 医療従事者としての姿勢を身に付けること。				

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション、評価総論、ROM と MMT について
第2回	身体計測・上肢（肢長および周径）
第3回	身体計測・下肢（肢長および周径）
第4回	中間試験①、肩甲帯の ROM と作用筋
第5回	肩関節の ROM と作用筋
第6回	中間試験②、肩関節のエコー観察
第7回	肘関節・前腕の ROM と作用筋
第8回	手関節の ROM と作用筋
第9回	中間試験③、肘関節と手関節のエコー観察
第10回	股関節の ROM と作用筋
第11回	膝関節の ROM と作用筋
第12回	足関節の ROM と作用筋
第13回	復習
第14回	期末試験
第15回	膝関節と足関節のエコー観察

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	後期
科目名	運動学Ⅱ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	鵜飼建志	実務経験	有	時間数	30
学修内容	解剖学、生理学が人の運動にどのように影響してくるかを知る。人間の正常な運動を知り、異常な運動を理解し、改善のために必要ない要素（運動療法）を理解できるようにする。教科書を中心に講義を進めるが、臨床力をつけるための補足説明も加える。				
到達目標	「運動学」の概要を知り、人の運動を構成する構造と機能を理解する。 各関節の構造、機能、筋の作用などを理解し説明できるようにする。 運動学の講義を通し、柔道整復師にとって必要な患者を治すために最低限必要である正常な人の動きをイメージできるようにする。				
成績評価	定期試験の結果 90%（小テストを行った場合はここに加味する） 出席状況 10% 受講態度が悪いなど将来の患者に不利益を生じる可能性が高い、と判断した場合は警告し、反省・改善が見られなければ減点対象とする。				
使用教材	運動学（改訂第3版）：公益社団法人全国柔道整復学校協会 監修：医歯薬出版株式会社				
留意点	講義態度は、医療人としての責任感・倫理観について重視する。 再三再四の指導にも講義態度に改善が見られない場合には、定期試験を待たずに単位を認めない場合もある。定期試験の成績によっては再試験が受けられない可能性がある。				

回数	授業計画
第1回	8. 四肢と体幹の運動 F. 膝
第2回	8. 四肢と体幹の運動 G. 足関節と足部
第3回	8. 四肢と体幹の運動 H. 体幹と脊柱
第4回	8. 四肢と体幹の運動 I. 頸椎
第5回	8. 四肢と体幹の運動 J. 胸椎
第6回	8. 四肢と体幹の運動 K. 腰椎、仙椎および骨盤
第7回	8. 四肢と体幹の運動 L. 顔面および頭部
第8回	9. 姿勢
第9回	10. 歩行 A. 歩行周期 B. 運動学的分析
第10回	10. 歩行 C. 運動力学的分析 D. 筋活動
第11回	10. 歩行 E. エネルギー代謝 F. 異常歩行
第12回	11. 運動発達
第13回	12. 運動学習
第14回	運動学的なストレッチング1（理論と実技）
第15回	運動学的なストレッチング2（実技）

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	後期
科目名	生理学Ⅵ	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	溝口 博之	実務経験	有・ 無	時間数	30
学修内容	高齢者および競技者にみられる生理学的特徴・変化を学習する。				
到達目標	<p>高齢者にみられる生理学的変化を器官ごとに専門用語を用いて説明できる。</p> <p>高齢者の歩行機能について専門用語を用いて説明できる。</p> <p>小児期から青年期の発達曲線が専門用語を用いて説明できる。</p> <p>トレーニングによる筋・心肺機能の変化が専門用語を用いて説明できる。</p> <p>トレーニングによる姿勢調節能力の変化が専門用語を用いて説明できる。</p>				
成績評価	期末テスト（約80点相当）と授業期間中に行う数回の小テスト・出席（約20点）とで可否を判断する。				
使用教材	<p>生理学教科者（南江堂）</p> <p>トートラ／佐伯他 訳：人体解剖生理学原書第10版（丸善出版、2017年刊）</p> <p>坂井他 訳：人体の正常構造と機能第3版（日本医事新報社、2017年刊）</p> <p>石川他 訳：ガイトン生理学 原著第13版（エルゼビア・ジャパン株式会社、2018年刊）</p>				
留意点	30時間の内訳は「高齢者の生理学的特徴・変化」で15時間、「競技者の生理学的特徴・変化」で15時間とし、最近の知見を盛り込み実施する。高齢者や競技者の生理学的特徴を理解するには、生理学基礎の理解が必要であるため、これまでに学んだⅠ～Ⅴの内容の復習も兼ねて授業を行う。				

回数	授業計画
第1回	【高齢者】細胞の加齢現象
第2回	【高齢者】細胞内小器官の変化
第3回	【高齢者】神経の変化
第4回	【高齢者】運動器系の変化
第5回	【高齢者】感覚器系の変化
第6回	【高齢者】循環器系・呼吸器系・消化器系・皮膚の変化
第7回	【高齢者】高齢者に多い疾患・障害
第8回	【高齢者】運動と加齢 【競技者】小児期から青年期の発達曲線
第9回	【競技者】小児期から青年期の発育の特徴
第10回	【競技者】小児期から青年期の呼吸循環系機能と運動
第11回	【競技者】発育期の運動不足・過運動の影響
第12回	【競技者】運動の発達と習熟
第13回	【競技者】トレーニングによる筋・心肺機能の適応的变化
第14回	【競技者】トレーニングによる神経機構の変化・姿勢調節能力の変化
第15回	【競技者】眼球運動と姿勢制御

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学 期	後 期
科目名	病理学概論Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	楠本 高紀	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な病理学の知識を修得する。 疾病の本態を探求する病理学の概念を知り、疾病の発生機序と分類、それによってもたらされる病態の概要を学ぶ。				
到達目標	疾病に関する知識を深め、疾病の経過、予後、転帰を理解する。 免疫異常、腫瘍、先天性奇形、病因に関する理解を深める。				
成績評価	定期試験、出席率、態度などを勘案して評価する。				
使用教材	病理学概論：公益社団法人全国柔道整復学校協会版（医歯薬出版） 授業時の配布資料				
留意点	出席率の評価は本校の生徒便覧の記載に準拠するが、授業については全出席すること基本と思慮するため、欠席しがちの生徒には指導するので心がけておくこと。				

回 数	授業計画
第1回	免疫総論
第2回	免疫各論（1）
第3回	免疫各論（2）
第4回	腫瘍総論（1）
第5回	腫瘍総論（2）
第6回	腫瘍各論（1）
第7回	腫瘍各論（2）
第8回	先天異常総論
第9回	先天異常各論
第10回	外因（1）
第11回	外因（2）
第12回	内因（1）
第13回	内因（2）
第14回	総まとめ
第15回	総まとめ（2）

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	後期
科目名	一般臨床医学Ⅱ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	緒方 華	実務経験	有	時間数	30
学修内容	生理学・解剖学での学習を基礎として、基本的な疾患の内科的知識を学ぶ。				
到達目標	国家試験合格に必要な知識を修得する。 柔道整復師の臨床において、的確な判断を下すための理論を身につける。				
成績評価	定期試験、小テスト				
使用教材	『一般臨床医学』公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂）				
留意点					

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション
第2回	呼吸器疾患① 感染性肺疾患
第3回	呼吸器疾患② 閉塞性/拘束性肺疾患
第4回	呼吸器疾患③ 肺癌、その他
第5回	循環器疾患① うっ血性心不全、虚血性心疾患
第6回	循環器疾患② 心臓弁膜症、先天性心疾患
第7回	循環器疾患③ その他脈管系疾患
第8回	消化器疾患① 食道疾患
第9回	消化器疾患② 胃・十二指腸疾患
第10回	消化器疾患③ 腸疾患
第11回	肝胆膵疾患① 肝疾患
第12回	肝胆膵疾患② 胆疾患
第13回	肝胆膵疾患③ 膵疾患
第14回	代謝疾患① 糖尿病・脂質異常症
第15回	代謝疾患② 肥満症・メタボリックシンドローム・痛風

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	後期
科目名	整形外科概論Ⅱ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	皿袋 良直	実務経験	無	時間数	30
学修内容	整形外科の基礎知識を習得する。 将来、柔道整復の施術に応用可能な技術の理論的背景を理解する。				
到達目標	疾患や手術についての的確に説明できる。 さらに、メディアやネットの医療に関する情報に対して医学的に検証し、 偏見や独善的仮説を排除する姿勢を養う。				
成績評価	定期試験：4 択試験、80 点満点、 日常「おさらい問題」得点（最高 20 点）を併せて 60 点以上の得点で単位認定				
使用教材	整形外科：南江堂 柔道整復学 理論編：南江堂				
留意点					

回数	授業計画
第 1 回	骨格筋の基礎知識 筋膜
第 2 回	筋肉疾患： 進行性筋ジストロフィー・筋断裂
第 3 回	靭帯・腱の基礎知識
第 4 回	腱鞘炎 ・ 腱断裂
第 5 回	神経の基礎知識 神経麻痺
第 6 回	絞扼性神経障害： 橈骨神経麻痺
第 7 回	正中神経麻痺・尺骨神経麻痺
第 8 回	腕神経叢疾患： 胸郭出口症候群 分娩麻痺 引き抜き損傷
第 9 回	絞扼性神経障害（下肢）
第 10 回	椎間板ヘルニア
第 11 回	脊柱管狭窄症
第 12 回	脊髄損傷： 概念・診断・リハビリテーション
第 13 回	脊髄疾患 脊髄腫瘍
第 14 回	脳性麻痺 歩行障害
第 15 回	湿布の薬理： NSAIDs

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	後期
科目名	リハビリテーション概論Ⅱ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	鵜飼建志	実務経験	有	時間数	30
学修内容	リハビリテーションの一分野である「リハビリテーション医学」の概要を知る。主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について学ぶ。教科書を中心に講義を進めるが、より理解を深め、臨床力をつけるための補足説明も加える。				
到達目標	リハビリテーション医学の概要、治療対象を知る。主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について説明できる。講義を通し柔道整復師にとって必要な医療人としての一般常識、専門知識の基礎、倫理観などを知る。				
成績評価	定期試験の結果 90%（小テストを行った場合はここに加味する） 出席状況 10% 受講態度が悪いなど将来の患者に不利益を生じる可能性が高い、と判断した場合は警告し、反省・改善が見られなければ減点対象とする。				
使用教材	リハビリテーション医学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	講義態度は、医療人としての責任感・倫理観について重視する。 再三再四の指導にも講義態度に改善が見られない場合には、定期試験を待たずに単位を認めない場合もある。定期試験の成績によっては再試験が受けられない可能性がある。				

回数	授業計画
第1回	リハビリテーションの治療（B 作業療法）
第2回	リハビリテーションの治療（C 補装具-1 装具）
第3回	リハビリテーションの治療（C 補装具-2 義肢）
第4回	リハビリテーションの治療（C 補装具-3 移動補助具 -4 自助具他）
第5回	リハビリテーションの治療（D 言語治療）
第6回	リハ医学と関連職種、リハの実際 A 脳卒中-1 分類と特徴
第7回	リハの実際 A 脳卒中-2 障害-3 リハ
第8回	リハの実際 B 脊髄損傷
第9回	リハの実際 C 小児疾患 5-7, D 切断
第10回	リハの実際 D 切断 E 末梢神経損傷
第11回	リハの実際 F 関節リウマチ
第12回	リハの実際 G 整形外科疾患
第13回	リハの実際 H 心疾患 I 呼吸器疾患
第14回	リハの実際 J 老人のリハビリテーション
第15回	リハビリテーションと福祉

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	後期
科目名	柔道ⅡB	科目の別	実技	単位数	1
担当教員	丹羽 十堂 今尾 省司 一柳 成美	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道の礼法、受身、寝技、立技の習熟。柔道の歴史・ルールを知る。 投の形の手技、腰技、足技を知る。				
到達目標	認定実技採点基準に準じた礼法、受身を行うことができる。 十分な速度、勢いのある約束乱取、乱取を行うことができる。 柔道について口頭で説明することができる。				
成績評価	1. 定期試験(70%) 2. 筆記試験(20%) 3. 出席及び授業態度(10%) ・実技試験を受けることが出来ない者は、別途口頭と筆記試験を行う。評価は総合的 (通常試験を受けた者に不利益がないように)に判断する。 ・遅刻、欠席及び授業進行を妨げる迷惑行為に関して減点対象とする。				
使用教材	柔道(公益社団法人全国柔道整復学校協会・公益社団法人 講道館 鮫島元就 監修) 講道館柔道DVDシリーズ第3作「投の形」(財団法人講道館)				
留意点	礼法、受身等、日常動作とは異なる動作があるため皆勤が望ましい。 ピアス、指輪、付け爪等は危険なため原則禁止とする。 実技試験は認定実技審査の基本的な事項を基準に行う。 見学者は授業中にレポートを書いて提出することにより出席とする。				

回数	授業計画
第1回	寝技 抑込技説明と実際
第2回	寝技 抑込技、絞め技の説明
第3回	寝技 抑込技、関節技の説明
第4回	立技 新たな技(大外刈) 約束乱取り 寝技 亀の返し方①
第5回	立技 新たな技(背負投) 約束乱取り 寝技 亀の返し方②
第6回	立技 連絡技 約束乱取り 寝技 乱取り
第7回	立技 返し技 約束乱取り 寝技 乱取り
第8回	立技 立技から寝技への移行 約束乱取り 寝技 乱取り
第9回	立技 約束乱取り 寝技 乱取り 柔道のルール説明①
第10回	立技 約束乱取り 寝技 乱取り 柔道のルール説明②
第11回	立技 乱取り 寝技 乱取り 審判実践①
第12回	立技 乱取り 寝技 乱取り 審判実践②
第13回	投の形の説明
第14回	定期試験の説明(筆記・実技)
第15回	定期試験(筆記・実技)

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	前期
科目名	実技ⅢA	科目の別	実習	単位数	1単位
担当教員	木全 健太郎、爲房 佑輔	実務経験	有	時間数	30時間
学修内容	認定実技の審査項目を中心に整復、検査、固定の実技を学習する				
到達目標	各種損傷に対する整復法、検査法、固定法が正確にできること。 損傷部のエコー観察				
成績評価	中間試験 50%、期末試験 50%としそれぞれ 30%以上の得点で合格とする。				
使用教材	柔道整復学・理論編、実技編（南江堂） 各種実技教材				
留意点	医療を学ぶ姿勢で取り組むこと				

回数	授業計画
第1回	肩関節の診察と検査法（腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷）
第2回	大腿部の診察と検査法（大腿四頭筋打撲、ハムストリングス肉ばなれ）
第3回	膝関節の診察と検査法（半月板損傷）
第4回	膝関節の診察と検査法（十字靭帯損傷）
第5回	膝関節の診察と検査法（側副靭帯損傷）
第6回	下腿部と足関節の診察と検査法（下腿三頭筋肉ばなれ、足関節外側靭帯損傷）
第7回	中間テスト
第8回	手第2指PIP関節背側脱臼の固定法
第9回	第5中手骨頸部骨折の固定法
第10回	肋骨骨折の固定法
第11回	膝関節内側側副靭帯損傷のXサポートテープ固定
第12回	下腿骨骨幹部骨折の固定法
第13回	アキレス腱断裂の固定法
第14回	期末テスト
第15回	足関節外側靭帯損傷の固定法

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	後期
科目名	柔整各論 I B	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	伊藤 和己	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な理論、上腕骨骨頭部から上腕骨幹部骨折 肩部から上腕部の軟部組織損傷の知識を習得する 臨床現場で施術にあたるための基礎知識の習得				
到達目標	上腕骨骨折・肩部から上腕中 1/3 までの骨折・軟部組織損傷の定義分類について説明できる また、評価判定・施療・管理指導について説明が出来るようになる				
成績評価	1. 定期試験 2. 授業態度および小実技テスト（理解などを総合的な評価） 3. 出席日数 ※配点比率は、1 = 60%、2 = 40%、3 = 欠席 1 コマにつき -5 点とする 内職も -2 点とし 3 回以降は毎回 -5 点とする				
使用教材	・柔道整復学 理論編、実技編、包帯固定学 ・映像・画像（含むインターネット）				
留意点	臨床と同じ心構え（清潔感 立ち居振る舞い）で 3 診・検査判定・整復固定・後療を行い患者さんの為に的確に行えられるようにする 接骨院実習で使える知識を習得できるようにする				

回数	授業計画
第 1 回	上腕骨 骨・筋・神経解剖 おさらい
第 2 回	・上腕骨近位端部骨折 骨頭 解剖頸骨折 骨端線離開 概説
第 3 回	全上
第 4 回	・上腕骨近位部骨折 外科頸骨折 概説
第 5 回	・上腕骨骨幹部骨折 概説
第 6 回	・実技 肩甲上腕 肩鎖 胸鎖関節脱臼 整復 固定
第 7 回	全上
第 8 回	全上
第 9 回	・肩部軟部組織損傷 腱板断裂 概説
第 10 回	全上 二頭筋腱損傷 概説
第 11 回	全上 Bennet' s 損傷 SLAP 損傷 リトルリーガーズショルダー 概説
第 12 回	全上 肩関節周囲炎 概説
第 13 回	実技 肩部から上腕の検査判定法
第 14 回	全上
第 15 回	・神経絞扼障害 含む胸郭出口症候群 概説 1/21 定期試験

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学 期	後期
科目名	柔道整復学 各論ⅡB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	肘関節部から指先までの骨折・脱臼・軟部組織損傷に対して、発生機序・整復法・固定法を理解し修得する				
到達目標	各損傷を理解し説明できる 各部位における鑑別診断とその指導管理について説明できる				
成績評価	定期試験 100%				
使用教材	柔道整復学【理論編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 柔道整復学【実技編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂）				
留意点	*神経損傷については各論ⅠA・ⅠBで行う				

回 数	授業計画
第1回	前腕遠位部の骨折（コーレス骨折の整復法、固定法）実技含む
第2回	手根骨骨折（舟状骨骨折）
第3回	手根骨骨折（三角骨、有鉤骨、豆状骨、その他の骨折）
第4回	手関節脱臼（遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼）
第5回	手関節脱臼（月状骨および月状骨周囲脱臼）
第6回	手関節部の軟部組織損傷（TFCC、ド・ケルバン病、その他）
第7回	手指部の機能解剖
第8回	中手骨骨折（骨頭骨折、頸部骨折、骨幹部骨折、基部骨折）
第9回	手根中手関節脱臼（第1CM、第2～5CM関節）
第10回	指骨骨折（基節骨骨折）
第11回	指骨骨折（中節骨骨折）
第12回	指骨骨折（末節骨骨折）
第13回	中手指節間脱臼（第1MP、第2～5MP関節）
第14回	指節間関節脱臼（PIP, DIP関節）
第15回	腱・靭帯の損傷、手指部の変形疾患

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学期	後期
科目名	柔道整復学 各論ⅢB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	○・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な柔道整復理論と実技の知識や技術を修得する。 骨折・脱臼・軟部組織損傷に関して系統的に学習する。				
到達目標	体幹部の骨折・脱臼の定義、分類について説明することができる。 骨折・脱臼の鑑別、合併症、軟部組織損傷など臨床現場における判断基準について説明することができる。 骨折・脱臼・軟部組織損傷の症状、治療法、指導管理について説明することができる。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	柔道整復学（理論編）（実技編）：南江堂				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回数	授業計画
第1回	仙腸関節の検査法（ゲンスレンテスト、ニュートンテスト、）
第2回	股関節の検査法（アリステスト、ドレーマン徴候、パトリックテスト）
第3回	胸骨骨折、骨盤部の構造
第4回	骨盤骨折（骨盤骨単独骨折、骨盤輪骨折）
第5回	股関節脱臼
第6回	大腿骨骨頭部骨折、大腿骨頸部骨折
第7回	大腿骨転子部骨折、大腿骨転子下骨折
第8回	大腿骨骨幹部骨折
第9回	頸椎の骨折（上位頸椎骨折、中・下頸椎骨折）
第10回	胸椎の骨折（上部胸椎棘突起骨折、胸椎の椎体骨折）
第11回	腰椎の骨折（下位腰椎圧迫骨折、チャンス骨折、椎体破裂骨折、肋骨突起骨折）
第12回	頸椎・胸椎・腰椎脱臼
第13回	胸背部の軟部組織損傷
第14回	腰部の軟部組織損傷
第15回	頸部・仙腸関節・股関節の検査法

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2年	学 期	後 期
科目名	柔道整復学 各論IVB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	鈴木 聖子	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復学における下腿から足部の疾患について、疫学・発生機序・症状・治療法の理論を修得する。				
到達目標	柔道整復学における下腿から足部の疾患について正しく理解し、説明できること。				
成績評価	中間試験 30% 期末試験 70%				
使用教材	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 標準整形外科学（南江堂）				
留意点	出席を常とし、こまめな復習を心がけること。				

回 数	授業計画
第1回	下腿部の解剖と機能
第2回	下腿骨骨幹部骨折（クラーメル副子固定）
第3回	下腿骨果上骨折・下腿骨疲労骨折
第4回	アキレス腱（周囲）炎・アキレス腱断裂（クラーメル副子固定）
第5回	下腿部のスポーツ障害
第6回	コンパートメント症候群
第7回	足関節の解剖と機能
第8回	果部骨折・足関節部の脱臼
第9回	足根骨骨折（距骨・踵骨）
第10回	足関節捻挫（局所副子固定）
第11回	足関節捻挫の類症鑑別
第12回	足関節のテーピング（バスケットウィーブ・フィギュアエイト・ヒールロック）
第13回	足・足趾部の解剖と機能
第14回	足根骨骨折（舟状骨・立方骨・楔状骨）・中足骨骨折
第15回	趾骨の骨折・足根部の脱臼と軟部組織損傷

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	臨床入門Ⅱ	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	脊柱から下肢（股関節、膝関節、足関節）の体表触察、関節可動域測定、徒手筋力検査、各種理学所見のとり方（腱反射など）、エコー画像の描出法を修得する。 医療面接の基本を修得する。				
到達目標	临床上よく遭遇する脊柱から下肢の疾患について、見て（診て）、触って、動かして評価できること。臨床実習を行う前段階として、患者に接する基本的姿勢を身に付けること。				
成績評価	中間試験 70% 期末試験 30%				
使用教材	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂）				
留意点	出席を常とし、理論に基づいた実技の修得を心がけること。 医療従事者としての姿勢を身に付けること。				

回 数	授業計画
第 1 回	医療面接
第 2 回	股関節の ROM
第 3 回	股関節の MMT
第 4 回	股関節の徒手検査法
第 5 回	股関節の徒手療法（筋力強化訓練とストレッチ）
第 6 回	膝関節の ROM
第 7 回	膝関節の MMT
第 8 回	膝関節の徒手検査法・エコー観察
第 9 回	中間試験（股関節～膝関節の評価）
第 10 回	足関節の ROM
第 11 回	足関節の MMT
第 12 回	足関節の徒手検査法・エコー観察
第 13 回	頸椎椎間板ヘルニアの検査法
第 14 回	腰椎椎間板ヘルニアの検査法
第 15 回	期末試験

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2～3年	学 期	通 年
科目名	臨床実習	科目の別	実 習	単位数	4
担当教員	戸崎素成	実務経験	有	時間数	180
学修内容	学校で学んだ事を、臨床現場で活用できるようにする。 患者さんとのコミュニケーションをできるようにする。 接骨院実習で遭遇した症例を振り返り、実習時の対応について妥当性を検討できる。				
到達目標	接骨院業務の流れを覚える。 評価と施術ができる。 レポートおよび発表を通じて第三者に客観的データとともに議論できること。				
成績評価	校内臨床実習と校外臨床実習を勘案して評価する。 評価割合は3：1とする。				
使用教材	臨床実習の手引き				
留意点	臨床実習4単位180時間のうち、1単位45時間分を校外臨床実習として行う。 校外臨床実習のうち、1単位45時間を2年生学年末休業中と3年生夏期休業中に実施する。				

授業計画（学修内容）

基礎実習

- 1) 柔道整復師としてふさわしい服装、身だしなみや態度を身につける
- 2) 医療面接の実施
- 3) ROM、MMTなどを計測、評価の実施
- 4) 神経学的検査、脈管検査、評価の実施
- 5) 治療機器の効果、禁忌の理解
- 6) ベッドメイキング、衛生面への配慮

【見学実習】 環境準備、受付業務、患者さんの誘導を実施

【体験実習】 患者として施術を受け、グループディスカッションの実施

患者さんに対する対応

- 1) 患者に対して適切な対応ができる
- 2) 患者の抱える問題点に共感できる。
- 3) 自己の問題点を抽出し、解決できる。

施術録作成・症例検討

- 1) 施術録の記載
- 2) 症例検討の実施

保険請求（受療委任の手続き）

- 1) 手続きの意義
- 2) 記載方法の実施

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年	学期	前期
科目名	一般臨床医学Ⅲ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	緒方 華	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な内科的知識を身に付ける。				
到達目標	国家試験合格に必要な知識を習得する。 柔道整復師の臨床において、的確な判断を下すための理論を身につける				
成績評価	定期試験、小テスト				
使用教材	一般臨床医学：公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂）				
留意点					

回数	授業計画
第1回	ガイダンス、講義予定説明。内分泌疾患① 総論、下垂体疾患、甲状腺疾患
第2回	内分泌疾患② 副甲状腺疾患、副腎皮質疾患
第3回	まとめ 小テスト
第4回	血液・造血器疾患① 総論、赤血球疾患
第5回	血液・造血器疾患② 白血球疾患、リンパ系疾患、血漿蛋白異常症
第6回	まとめ 小テスト
第7回	腎・尿路疾患① 総論、腎不全、CKD、血液浄化療法 腎移植
第8回	腎・尿路疾患② 糸球体疾患、尿路感染症、泌尿器疾患
第9回	まとめ、小テスト
第10回	神経疾患① 総論、脳血管障害、腫瘍性疾患～筋疾患
第11回	神経疾患② パーキンソン病～筋疾患
第12回	まとめ、小テスト
第13回	リウマチ性疾患 総論、関節リウマチ～シェーグレン症候群
第14回	感染症 総論、AIDS、帯状疱疹
第15回	まとめ、テスト

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年	学期	前期
科目名	外科学概論 I	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	緒方 華	実務経験	有	時間数	30
学修内容	外科学、観血的治療の基礎知識を習得する。 将来、柔道整復の施術に応用可能な技術の理論的背景を理解する。				
到達目標	疾患や手術について、国家試験合格に必要な知識を身につける。				
成績評価	定期試験、小テスト				
使用教材	『外科学概論』公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂）				
留意点					

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション
第2回	損傷① 種類 交通外傷
第3回	損傷② 特殊損傷 熱傷
第4回	炎症・外科感染症① 炎症発症のメカニズム
第5回	炎症・外科感染症② 外科感染症
第6回	腫瘍① 良性腫瘍
第7回	腫瘍② 悪性腫瘍
第8回	ショック
第9回	輸血・輸液
第10回	消毒・滅菌
第11回	手術・麻酔① 手術の分類、皮膚切開
第12回	手術・麻酔② 全身麻酔、局所麻酔、神経ブロック
第13回	移植と免疫
第14回	出血と止血
第15回	心肺蘇生法

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年	学期	前期
科目名	衛生学・公衆衛生学 I	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	皿袋 良直	実務経験	無	時間数	30
学修内容	疾病の発症に関わる様々な社会・環境要因についての理解を深め、疾病の一次予防、二次予防、三次予防に必要な諸条件の整備について考察・実践するために必要な知識を習得することを目標にする。				
到達目標	社会・環境要因は人の一生を軸にした見方と、人の生活、労働などの活動の場を軸にした見方で整理し、人の健康と環境との関係の評価するための科学的理論である疫学的方法論や様々な行政資料の意義とその利用法について学び、データから新たな知見を見いだすことができる独創力を養う。				
成績評価	定期試験 50% 小テスト 2回 50% 参加度 授業に取り組む学習態度として遅刻・欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	衛生学・公衆衛生学：公益法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 国家試験過去問題集				
留意点	衛生学・公衆衛生学は学際的な基礎科目であり、人の健康増進に寄与するすべての専門職（医療系、栄養系、環境系）は資格の種類にかかわらず学んでおくことが要求される共通分野である。				

回数	授業計画
第1回	衛生学・公衆衛生学の歴史
第2回	健康の概念
第3回	健康指標
第4回	疾病予防・健康管理
第5回	感染症
第6回	感染症予防対策
第7回	消毒法の分類と実践
第8回	第1回～第7回まとめ（第一回小テストおよび解説）
第9回	環境保健 1
第10回	環境保健 2
第11回	生活環境
第12回	食品衛生 1
第13回	食品衛生 2・廃棄物
第14回	母子保健
第15回	第9回～第14回まとめ（第二回小テストおよび解説）

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年	学期	前期
科目名	関係法規	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師として必要な保険医療制度と関係法規について学ぶ。				
到達目標	柔道整復師に関連する法律の知識の習得。				
成績評価	定期試験 100% 参加度 欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 再試験の評価については、その試験のみで評価する。				
使用教材	関係法規：社団法人全国柔道整復学校協会 医歯薬出版株式会社				
留意点	関係法規は柔道整復師の身分を定める法律を含め学ぶため皆勤が望ましい。				

回数	授業計画
第1回	法の意義、体系
第2回	患者の権利、医療過誤とリスクマネジメント
第3回	柔道整復師法：目的、定義
第4回	柔道整復師法：免許、国家試験
第5回	柔道整復師法：業務
第6回	柔道整復師法：施術所
第7回	柔道整復師法：雑則、罰則
第8回	医療関係法規
第9回	医療関係法規
第10回	医療法
第11回	医療法
第12回	社会福祉関係法規
第13回	社会保険関係法規
第14回	総復習 1
第15回	総復習 2

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年生	学期	通年
科目名	柔道Ⅲ	科目の別	実技	単位数	1
担当教員	丹羽 十堂 西川 可一 一柳 成美	実務経験	有	時間数	45
学修内容	礼法、受身、約束乱取の習得、投の形(手技、腰技、足技)の習得、試験形式				
到達目標	認定実技審査合格レベルに到達する				
成績評価	1. 認定実技模擬審査(50%) 2. 3回の小テスト(各10% 計30%) 3. 出席及び授業態度(20%) ※3年間で筆記のみ合格し、実技試験に合格していない者は単位取得を認めない。				
使用教材	柔道(公益社団法人全国柔道整復学校協会・公益社団法人 講道館 鮫島元就 監修) 講道館柔道DVDシリーズ第3作「投の形」(財団法人講道館)				
留意点	礼法、受身等、日常動作とは異なる動作があるため皆勤が望ましい。 ピアス、指輪、付け爪等は危険なため原則禁止とする。 見学者は授業中にレポートを書いて提出することにより出席とする。				

回数	授業計画	回数	授業計画
第1回	投の形の説明、礼法の確認、受身	第16回	受身、約束乱取、投の形(足技)
第2回	礼法、受身、立技、投の形(浮落)	第17回	受身、投の形(足技)、小テスト③
第3回	礼法、受身、立技、投の形(背負投)	第18回	認定実技の流れ、練習
第4回	受身、立技、投の形(肩車)	第19回	認定実技の練習
第5回	受身、立技、投の形(手技)	第20回	認定実技模擬試験
第6回	受身、投の形(手技)、小テスト①	第21回	認定実技の練習
第7回	受身、立技、投の形(浮腰)	第22回	認定実技の練習
第8回	受身、立技、投の形(払腰)	第23回	認定実技最終確認、練習
第9回	受身、立技、投の形(釣込腰)		
第10回	受身、立技、投の形(腰技)		
第11回	受身、投の形(腰技)、小テスト②		
第12回	受身、立技、投の形(送足払)		
第13回	受身、立技、投の形(支釣込足)		
第14回	受身、約束乱取、投の形(内股)		
第15回	受身、約束乱取、投の形(足技)		

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学 演習ⅡA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な解剖学的知識を修得する。				
到達目標	運動器系・神経系・循環器系について、臨床症状の検討ができること。 内臓系について、柔道整復師国家試験に必要な知識を修得すること。				
成績評価	小テスト (50%) 期末試験 (50%)				
使用教材	解剖学 (社団法人全国柔道整復学校協会 監修・医歯薬出版) 配布プリント (国家試験の分野別問題集)				
留意点	学習内容が多いため、講義ごとに復習すること。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	解剖学概説
第 3 回	運動器系 (骨格系)・小テスト
第 4 回	運動器系 (筋系)・小テスト
第 5 回	末梢神経系 (脊髄神経)・小テスト
第 6 回	循環器系 (心臓)・小テスト
第 7 回	循環器系 (動脈系・静脈系、リンパ系、胎児循環)・小テスト
第 8 回	消化器系 (消化管)・小テスト
第 9 回	消化器系 (肝臓・胆嚢・膵臓)・小テスト
第 10 回	呼吸器系・小テスト
第 11 回	泌尿器系・小テスト
第 12 回	生殖器系・小テスト
第 13 回	内分泌系・小テスト
第 14 回	中枢神経系
第 15 回	末梢神経系 (脳神経)

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年	学期	前期
科目名	柔道整復学 各論VA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の知識を習得する。				
到達目標	各分野の損傷の特徴を捉え、説明することができる。 総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部損傷部の内容を説明することができる。				
成績評価	中間試験【50%】 定期試験【50%】				
使用教材	柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復学（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	1. 2年次で学修した内容の復習を行い、国家試験での得点力を獲得するための授業であるため、積極的に質問・発言をすることが望ましい。				

回数	授業計画
第1回	鎖骨骨折
第2回	肩鎖関節脱臼・肩甲骨骨折
第3回	上腕骨外科頸骨折
第4回	肩関節脱臼
第5回	肩部軟部組織損傷
第6回	第1回中間テスト
第7回	上腕骨骨幹部骨折・上腕骨顆上骨折
第8回	上腕骨外顆骨折・上腕骨内側上顆骨折
第9回	肘関節脱臼・肘内障
第10回	肘部軟部組織損傷
第11回	第2回中間テスト
第12回	前腕骨骨幹部骨折
第13回	前腕軟部組織損傷
第14回	橈骨遠位端部骨折
第15回	手根骨骨折、総復習

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年	学期	前期
科目名	柔道整復学 演習ⅢA	科目の別	演習	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	○有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な生理学的知識を修得する。				
到達目標	循環器系・呼吸器系・体温調節について臨床症状の検討ができること。 血液・消化・代謝について柔道整復師国家試験に必要な知識を修得すること。				
成績評価	期末試験				
使用教材	柔道整復学・理論編（南江堂） 生理学（南江堂） 解剖学（医歯薬出版株式会社）				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回数	授業計画
第1回	柔道整復師に必要な生理学基礎
第2回	柔道整復師に必要な生理学基礎
第3回	柔道整復師に必要な血液の機能
第4回	柔道整復師に必要な血液の機能
第5回	柔道整復師に必要な循環器の機能
第6回	柔道整復師に必要な循環器の機能
第7回	柔道整復師に必要な呼吸器の機能
第8回	柔道整復師に必要な呼吸器の機能
第9回	柔道整復師に必要な消化器の機能
第10回	柔道整復師に必要な消化器の機能
第11回	柔道整復師に必要な代謝の機能
第12回	柔道整復師に必要な代謝の機能
第13回	柔道整復師に必要な体温とその調節
第14回	柔道整復師に必要な体温とその調節
第15回	柔道整復師に必要な泌尿器の機能

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	臨床的判定	科目の別	講 義	単位数	2 単位
担当教員	戸崎 素成	実務経験	有	時間数	30 時間
学修内容	柔道整復術の適応の判断に必要な外傷に類似する疾患と、外傷の危険な兆候の基礎知識を習得する。 様々な医用画像機器の基本的な原理と、画像の特性や判断における要点を習得する。				
到達目標	臨床所見から施術の適否を的確に判断することができる。 各画像の特徴を理解し説明することができる。 超音波画像装置の基本的な操作ができる。				
成績評価	定期試験 100%				
使用教材	施術の適応と医用画像の理解（：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂）				
留意点	出席を常とするよう注意する。				

回 数	授 業 計 画
第 1 回	授業内容、評価方法説明、柔道整復術の適否
第 2 回	損傷に類似した症状を示す疾患
第 3 回	血流障害を伴う損傷
第 4 回	末梢神経損傷を伴う損傷
第 5 回	脱臼骨折・病的骨折および脱臼
第 6 回	外出血を伴う損傷
第 7 回	意識障害を伴う損傷
第 8 回	脊髄損傷のある損傷
第 9 回	呼吸運動障害を伴う損傷
第 10 回	内臓損傷の合併が疑われる損傷・高エネルギー外傷
第 11 回	医用画像の理解 放射線
第 12 回	X 線 CT・磁気共鳴検査
第 13 回	超音波画像装置
第 14 回	超音波画像装置 実技
第 15 回	超音波画像装置 実技

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年	学期	前期
科目名	実技IVA	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	伊藤和己	実務経験	○有・無	時間数	30
学修内容	顎関節・上肢に於いて、临床上よく遭遇する損傷・障害の判定・手技操作・固定法を修得する 前腕から手・指部の損傷に於いての整と復				
到達目標	学生が卒業後、臨床現場で活躍できる知識および技能を身につける 患者の立場になり接するようになれる柔道整復師となる 最低限の患部の評価・整復・固定が出来、復させる（手技操作）事が出来るようになる				
成績評価	1. 定期実技試験 2. 授業態度および小実技テスト（理解などの総合的な評価） 3. 出席日数 ※配点比率は、1=60%、2=40%、3=欠席1時間につき-1点とする 内職も-1点とし3回以降は毎回-5点とする				
使用教材	・柔道整復学 理論編、実技編、包帯固定学 ・映像・画像（含むインターネット）				
留意点	卒業後の臨床に役立つように身近な症例の実技とコツを伝授、また柔整手技の重要性を理解させたい 患者さんの利益を最優先に				

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション 顎のおさらい 蝶形骨の役割の意外性
第2回	顎部の外傷 整と復
第3回	肩部の外傷 鎖骨骨折 整と復
第4回	肩部の外傷 鎖骨骨折 整と復
第5回	肩部の外傷 肩鎖関節脱臼 整と復
第6回	肩部の外傷 肩関節脱臼 整と復
第7回	肩部の外傷 機能障害に対して
第8回	上腕部の外傷 整と復
第9回	上腕部の外傷 整と復
第10回	上腕部・肘部の外傷 整と復
第11回	肘部の外傷 整と復
第12回	肘部・前腕～手指部の外傷 整と復
第13回	前腕～手指部の外傷 機能障害に対して
第14回	実技試験
第15回	前期総評

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年	学期	前期
科目名	実技VA	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	鈴木 聖子	実務経験	有	時間数	30
学修内容	体幹、下肢について解剖学、運動学の観点から傷病を把握し検査・治療の必要性を理解する				
到達目標	臨床を想定した場合、患者さんにどうアプローチするかを考え責任ある行動ができるようにする。				
成績評価	実技テスト、小テストにて評価する。 試験結果と各期の出席率及び授業態度等を勘案して評価する。				
使用教材	柔道整復学理論編・実技編 (南江堂) 包帯固定学 配布プリント				
留意点	国試においても実技に関する問題、臨床的な問題の比率が増加していることを意識させ実技科目履修への意欲を学生に持ってもらうにする。				

回数	授業計画
第1回	足関節の機能解剖
第2回	足関節の検査法
第3回	小テスト（足関節の機能解剖・検査法）および足関節の機能解剖・検査法の練習
第4回	小テスト（足関節の機能解剖・検査法）および足関節の機能解剖・検査法の練習
第5回	足関節の治療法 1. 包帯固定法
第6回	足関節の治療法 2. テーピング
第7回	足関節の治療法 1. 包帯固定法 2. テーピング
第8回	足関節の治療法 3. ギプス固定法 4. 運動療法
第9回	小テスト（足関節の治療法）および足関節の治療法の練習
第10回	小テスト（足関節の治療法）および足関節の治療法の練習
第11回	膝関節の機能解剖
第12回	膝関節の検査法（触診）
第13回	膝関節の検査法（十字靭帯・半月板・側副靭帯検査法）
第14回	小テスト（膝関節の機能解剖・検査法）および膝関節の機能解剖・検査法の練習
第15回	小テスト（膝関節の機能解剖・検査法）および膝関節の機能解剖・検査法の練習

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	総合実技 I A	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	認定実技審査の出題項目に対応した施術実技を行う。 国家試験（特に必修問題）の対策を行う。				
到達目標	認定実技審査および国家試験における合格基準を達成する。				
成績評価	中間試験 60% (30%×2 回) 期末試験 40%				
使用教材	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 認定実技審査要領および中和式マニュアル				
留意点	出席を常とし、理論に基づいた実技の修得を心がけること。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション（認定実技審査および国家試験の概要）
第 2 回	鎖骨定型的骨折
第 3 回	上腕骨外科頸骨折
第 4 回	コーレス骨折
第 5 回	第 1 回中間試験（30%）
第 6 回	肩鎖関節上方脱臼
第 7 回	肩関節前方烏口下脱臼
第 8 回	肘関節後方脱臼
第 9 回	肘内障
第 10 回	第 2 回中間試験（30%）
第 11 回	肩腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷
第 12 回	ハムストリングス損傷・大腿四頭筋打撲
第 13 回	膝関節（側副靭帯・十字靭帯・半月板）損傷
第 14 回	下腿三頭筋損傷・足関節外側靭帯損傷
第 15 回	期末試験（40%）

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年	学期	前期
科目名	総合実技ⅡA	科目の別	実習	単位数	1単位
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	有	時間数	30時間
学修内容	認定実技試験に対応できる、知識と技術を獲得する。 実務に向けた総合学習を行う。				
到達目標	固定法を行うことができる。 各骨折、脱臼について説明することができる。				
成績評価	授業内に行う確認試験にて評価を行う				
使用教材	授業内で配布する資料 柔道整復学（理論編・実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 包帯固定法：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点					

回数	授業計画
第1回	内容説明 絆創膏固定① 鎖骨骨折
第2回	絆創膏固定② 肩鎖関節脱臼
第3回	シーネ固定① ミッテルドルフ
第4回	シーネ固定② コーレス骨折、肘関節脱臼
第5回	シーネ固定③ アキレス腱、下腿骨幹部
第6回	アルミ副子固定① ボクサー骨折
第7回	アルミ副子固定② 第2PIP関節脱臼
第8回	厚紙副子固定① 肋骨骨折、肩関節脱臼
第9回	厚紙副子固定② 足関節捻挫
第10回	テーピング固定① 膝関節、足関節
第11回	テーピング固定② 足関節
第12回	テーピング固定③
第13回	シュミレーション①
第14回	シュミレーション②
第15回	総復習

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	2～3年	学期	通年
科目名	臨床実習	科目の別	実習	単位数	4
担当教員	戸崎素成	実務経験	有	時間数	180
学修内容	学校で学んだ事を、臨床現場で活用できるようにする。 患者さんとのコミュニケーションをできるようにする。 接骨院実習で遭遇した症例を振り返り、実習時の対応について妥当性を検討できる。				
到達目標	接骨院業務の流れを覚える。 評価と施術ができる。 レポートおよび発表を通じて第三者に客観的データとともに議論できること。				
成績評価	校内臨床実習と校外臨床実習を勘案して評価する。 評価割合は3：1とする。				
使用教材	臨床実習の手引き				
留意点	臨床実習4単位180時間のうち、1単位45時間分を校外臨床実習として行う。 校外臨床実習のうち、1単位45時間を2年生学年末休業中と3年生夏期休業中に実施する。				

授業計画（学修内容）

基礎実習

- 1) 柔道整復師としてふさわしい服装、身だしなみや態度を身につける
- 2) 医療面接の実施
- 3) ROM、MMTなどを計測、評価の実施
- 4) 神経学的検査、脈管検査、評価の実施
- 5) 治療機器の効果、禁忌の理解
- 6) ベッドメイキング、衛生面への配慮

【見学実習】 環境準備、受付業務、患者さんの誘導を実施

【体験実習】 患者として施術を受け、グループディスカッションの実施

患者さんに対する対応

- 1) 患者に対して適切な対応ができる
- 2) 患者の抱える問題点に共感できる。
- 3) 自己の問題点を抽出し、解決できる。

施術録作成・症例検討

- 1) 施術録の記載
- 2) 症例検討の実施

保険請求（受療委任の手続き）

- 1) 手続きの意義
- 2) 記載方法の実施

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年	学期	後期
科目名	外科学概論Ⅱ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	緒方 華	実務経験	有	時間数	30
学修内容	外科学、観血的治療の基礎知識を習得する。 将来、柔道整復の施術に応用可能な技術の理論的背景を理解する。				
到達目標	疾患や手術について、国家試験合格に必要な知識を身につける。				
成績評価	定期試験、小テスト				
使用教材	『外科学概論』公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂）				
留意点					

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション
第2回	脳神経外科疾患① 意識障害、てんかん、運動障害
第3回	脳神経外科疾患② 中枢性脳疾患
第4回	脳神経外科疾患③ 主な脳・神経疾患
第5回	甲状腺・頸部疾患
第6回	胸壁・呼吸器疾患① 喀痰検査、開胸術、胸腔ドレナージ
第7回	胸壁・呼吸器疾患② 肺疾患、胸膜疾患、胸部損傷
第8回	心臓・脈管疾患① 検査法、到達法
第9回	心臓・脈管疾患② 先天性心疾患、心筋症
第10回	心臓・脈管疾患③ 虚血性心疾患、動脈・静脈疾患
第11回	乳腺疾患
第12回	腹部外科疾患① 腹痛、下痢、便秘、出血、黄疸
第13回	腹部外科疾患② 食道・胃・腸疾患
第14回	腹部外科疾患③ 肝・胆・膵疾患
第15回	腹部外科疾患④ 虫垂炎、ヘルニア、肛門疾患

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年	学期	後期
科目名	一般臨床医学Ⅳ	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	皿袋 良直	実務経験	無	時間数	30
学修内容	柔道整復師として自分の力量と限界をわきまえながら、救急現場や他の場面で適切に病態把握をして対処する方法を確認する。損傷に類似した症状を示す疾患の病態把握と治療法・対処法などを学習する。				
到達目標	既に学んでいる知識を整理し定着させ応用できる能力を向上させることを目標にする。				
成績評価	小テストおよび授業態度などを総合して評価する。				
使用教材	関連する教科書および他の資料など。				
留意点	90分の授業で学生の集中力を維持するために、色々な内容を準備する。 また、国家試験が近づいているため内容によっては関連する過去問を取り上げながら可能な範囲で解説していく。				

回数	授業計画
第1回	1 柔道整復術の適否を考える
第2回	2 損傷に類似した症状を示す疾患 (1)
第3回	3 損傷に類似した症状を示す疾患 (2)
第4回	4 損傷に類似した症状を示す疾患 (3)
第5回	5 血流障害を伴う損傷
第6回	6 末梢神経損傷を伴う損傷
第7回	7 脱臼骨折
第8回	8 外出血を伴う損傷
第9回	9 病的骨折および脱臼
第10回	10 意識障害を伴う損傷
第11回	11 脊髄症状のある損傷
第12回	12 呼吸運動障害を伴う損傷
第13回	13 内臓損傷の合併が疑われる損傷
第14回	14 高エネルギー外傷
第15回	15 まとめ

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年	学期	後期
科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	皿袋 良直	実務経験	無	時間数	30
学修内容	疾病の発症に関わる様々な社会・環境要因についての理解を深め、疾病の一次予防、二次予防、三次予防に必要な諸条件の整備について考察・実践するために必要な知識を習得することを目標にする。				
到達目標	社会・環境要因は人の一生を軸にした見方と、人の生活、労働などの活動の場を軸にした見方で整理し、人の健康と環境との関係性を評価するための科学的理論である疫学的方法論や様々な行政資料の意義とその利用法について学び、データから新たな知見を見いだすことができる独創力を養う。				
成績評価	定期試験 50% 小テスト 2回 50% 参加度 授業に取り組む学習態度として遅刻・欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	衛生学・公衆衛生学：公益法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 国家試験過去問題集				
留意点	衛生学・公衆衛生学は学際的な基礎科目であり、人の健康増進に寄与するすべての専門職（医療系、栄養系、環境系）は資格の種類にかかわらず学んでおくことが要求される共通分野である。				

回数	授業計画
第1回	学校保健
第2回	産業保健1
第3回	産業保健2
第4回	成人保健1
第5回	成人保健2・高齢者保健
第6回	精神保健
第7回	第1回～第6回まとめ（第一回小テストおよび解説）
第8回	地域保健1
第9回	地域保健2・国際保健
第10回	衛生行政
第11回	保健医療制度
第12回	疫学1
第13回	疫学2
第14回	第8回～第13回まとめ（第二回小テストおよび解説）
第15回	医の倫理と安全確保、まとめ、練習問題

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復学 演習ⅡB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な解剖学的知識を修得する。				
到達目標	運動器系・神経系・循環器系について、臨床症状の検討ができること。 柔道整復師国家試験に必要な知識を修得すること。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	解剖学（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・医歯薬出版） 柔道整復師国家試験の過去問題				
留意点	学習内容が多いため、講義ごとに復習すること。				

回 数	授業計画
第 1 回	感覚器系
第 2 回	体表解剖
第 3 回	運動器系の問題演習
第 4 回	循環器系の問題演習
第 5 回	消化器系の問題演習
第 6 回	呼吸器系の問題演習
第 7 回	泌尿器系の問題演習
第 8 回	生殖器系の問題演習
第 9 回	内分泌系の問題演習
第 10 回	中枢神経系の問題演習
第 11 回	末梢神経系の問題演習
第 12 回	感覚器系の問題演習
第 13 回	解剖学全般の問題演習①
第 14 回	解剖学全般の問題演習②
第 15 回	解剖学全般の問題演習③

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年	学期	後期
科目名	柔道整復学 各論VB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の知識を習得する。				
到達目標	各分野の損傷の特徴を捉え、説明することができる。 総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部損傷部の内容を説明することができる。				
成績評価	中間試験【50%】 定期試験【50%】				
使用教材	柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復学（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	1. 2年次で学修した内容の復習を行い、国家試験での得点力を獲得するための授業であるため、積極的に質問・発言をすることが望ましい。				

回数	授業計画
第1回	骨盤部骨折
第2回	股関節脱臼
第3回	大腿骨頸部骨折
第4回	大腿骨骨幹部骨折
第5回	股関節軟部組織損傷
第6回	大腿部軟部組織損傷
第7回	第1回中間テスト
第8回	膝部骨折
第9回	膝関節軟部組織損傷
第10回	膝関節軟部組織損傷
第11回	下腿骨骨幹部骨折
第12回	下腿軟部組織損傷
第13回	第2回中間テスト
第14回	足部骨折
第15回	足部脱臼、総復習

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3 年生	学 期	後期
科目名	各論VI	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	木全 健太郎、太田 康晴	実務経験	有	時間数	60
学修内容	柔道整復師に必要な「法規」「社会保障制度」「職業倫理」「柔道の理念」「解剖学」「生理学」「病理学」「一般臨床医学」「柔道整復学」の知識を修得する				
到達目標	「法規」「社会保障制度」「職業倫理」「柔道の理念」「解剖学」「生理学」「病理学」「一般臨床医学」「柔道整復学」の国家試験問題で80%以上正解できる				
成績評価	<p>第2回模擬試験または授業内で実施する試験で評価する。(定期試験は行わない)</p> <p>合格基準：次のいずれかを満たすもの</p> <p>①第2回模擬試験で必修問題8割以上かつ一般問題6割以上の得点</p> <p>②授業内で100点満点の試験を2度実施し得点合計が140点以上の得点</p> <p>※授業内で行う試験の出題割合は「必修科目×25」「解剖学×15」「生理学×15」「病理学×10」「一般臨床×15」「柔整理論×20」とする(例：校内模試の過去問から抜粋)</p> <p>評価：上記①または②の点数を100点換算し、いずれか良い点数とする。合格基準を満たさず、換算点が60点以上となるものはすべて「59点」とする。</p>				
使用教材	教科書：柔道整復学理論編・実技編 関係法規 社会保障制度 解剖学 生理学 病理学 一般臨床医学				
留意点	学習の優先順位を意識し知識を一つ一つ積み上げて下さい。				

回 数	授業計画	回 数	授業計画
第1回	教科書、配布資料を基に学習する	第16回	教科書、配布資料を基に学習する
第2回	教科書、配布資料を基に学習する	第17回	教科書、配布資料を基に学習する
第3回	教科書、配布資料を基に学習する	第18回	教科書、配布資料を基に学習する
第4回	教科書、配布資料を基に学習する	第19回	教科書、配布資料を基に学習する
第5回	教科書、配布資料を基に学習する	第20回	教科書、配布資料を基に学習する
第6回	教科書、配布資料を基に学習する	第21回	教科書、配布資料を基に学習する
第7回	教科書、配布資料を基に学習する	第22回	教科書、配布資料を基に学習する
第8回	教科書、配布資料を基に学習する	第23回	教科書、配布資料を基に学習する
第9回	教科書、配布資料を基に学習する	第24回	教科書、配布資料を基に学習する
第10回	第1回 授業内テスト	第25回	第2回 授業内テスト
第11回	教科書、配布資料を基に学習する	第26回	教科書、配布資料を基に学習する
第12回	教科書、配布資料を基に学習する	第27回	教科書、配布資料を基に学習する
第13回	教科書、配布資料を基に学習する	第28回	教科書、配布資料を基に学習する
第14回	教科書、配布資料を基に学習する	第29回	教科書、配布資料を基に学習する
第15回	教科書、配布資料を基に学習する	第30回	教科書、配布資料を基に学習する

2024年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年	学期	後期
科目名	柔道整復学 演習ⅢB	科目の別	演習	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な生理学的知識を修得する。				
到達目標	筋骨格系・神経系・感覚系について臨床症状の検討ができること。 泌尿器系・内分泌系・生殖系について柔道整復師国家試験に必要な知識を修得すること。				
成績評価	期末試験【50%】				
使用教材	柔道整復学・理論編（南江堂） 生理学（南江堂） 解剖学（医歯薬出版株式会社）				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回数	授業計画
第1回	柔道整復師に必要な泌尿器の機能
第2回	柔道整復師に必要な内分泌の機能
第3回	柔道整復師に必要な内分泌の機能
第4回	柔道整復師に必要な生殖器の機能
第5回	柔道整復師に必要な生殖器の機能
第6回	柔道整復師に必要な骨の機能
第7回	柔道整復師に必要な骨の機能
第8回	柔道整復師に必要な体液の機能
第9回	柔道整復師に必要な体液の機能
第10回	柔道整復師に必要な神経の機能
第11回	柔道整復師に必要な神経の機能
第12回	柔道整復師に必要な筋肉の機能
第13回	柔道整復師に必要な筋肉の機能
第14回	柔道整復師に必要な感覚器の機能
第15回	柔道整復師に必要な感覚器の機能

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年	学期	後期
科目名	演習Ⅳ	科目の別	演習	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	整形外科学、運動学、リハビリテーション医学の各教科を復習し、国家試験合格の一助とする。				
到達目標	一般問題 60%以上の得点力を身につけさせる。また、解剖学、生理学、柔道整復学などの他教科とリンクした勉強方法を習得させる。				
成績評価	定期試験 100% 授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	「運動学」医歯薬出版株式会社 「整形外科学」監修：南江堂 「リハビリテーション医学」監修：南江堂				
留意点					

回数	授業計画
第1回	整形外科学①
第2回	整形外科学②
第3回	整形外科学③
第4回	整形外科学④
第5回	整形外科学⑤
第6回	整形外科学⑥
第7回	整形外科学⑦
第8回	整形外科学⑧
第9回	リハビリテーション医学①
第10回	リハビリテーション医学②
第11回	リハビリテーション医学③
第12回	運動学①
第13回	運動学②
第14回	運動学③
第15回	運動学④

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年	学期	後期
科目名	実技IVB	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	伊藤和己	実務経験	○有・無	時間数	30
学修内容	上肢に於いて、臨床上よく遭遇する損傷・障害の判定・手技操作・固定法を修得する 前腕から手・指部の損傷に於いての整と復				
到達目標	学生が卒業後、臨床現場で活躍できる知識および技能を身につける 患者の立場になり接するようになれる柔道整復師となる 最低限の患部の評価・整復・固定が出来、復させる（手技操作）事が出来るようになる				
成績評価	1. 定期実技試験 2. 授業態度および小実技テスト（理解などの総合的な評価） 3. 出席日数 ※配点比率は、1=60%、2=40%、3=欠席1時間につき-1点とする 内職も-1点とし3回以降は毎回-5点とする				
使用教材	・柔道整復学 理論編、実技編、包帯固定学 ・映像・画像（含むインターネット）				
留意点	卒業後の臨床に役立つように身近な症例の実技とコツを伝授、また柔整手技の重要性を理解 させたい 患者さんの利益を最優先に考える				

回数	授業計画
第1回	手・指部の外傷 整と復
第2回	手・指部の外傷 機能障害に対して
第3回	上肢の臨床上よくみられる疾患・指部の外傷 機能障害に対して
第4回	上肢の臨床上よくみられる疾患と鑑別
第5回	上肢の外傷 整と復
第6回	鎖骨骨折・上腕骨骨折・肩鎖関節上方脱臼・肩関節前方脱臼 整復固定
第7回	鎖骨骨折・上腕骨骨折・肩鎖関節上方脱臼・肩関節前方脱臼 整復固定
第8回	前腕骨下端部骨折・肘関節前方脱臼 整復固定
第9回	前腕骨下端部骨折・肘関節前方脱臼 整復固定
第10回	上肢軟部組織損傷 整と復
第11回	上肢軟部組織損傷 全上
第12回	上肢軟部組織損傷 全上
第13回	上肢軟部組織損傷 機能障害に対して
第14回	後期実技テスト
第15回	総評 柔道整復師のすべきこと

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年	学期	後期
科目名	実技VB	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	鈴木 聖子	実務経験	有	時間数	30
学修内容	体幹、下肢について解剖学、運動学の観点から傷病を把握し検査、治療の必要性を理解する				
到達目標	臨床を想定した場合、患者さんにどうアプローチするかを考え責任ある行動ができるようになる。				
成績評価	実技テスト、小テストにて評価する。 試験結果と各期の出席率及び授業態度等を勘案して評価する。				
使用教材	柔道整復学理論編・実技編 (南江堂) 包帯固定学 配布プリント				
留意点	国試においても実技に関する問題、臨床的な問題の比率が増加していることを意識させ実技科目履修への意欲を学生に持ってもらうにする。				

回数	授業計画
第1回	膝関節の治療法 1. 包帯固定法
第2回	膝関節の治療法 2. テーピング
第3回	膝関節の治療法 3. 運動療法
第4回	小テスト(膝関節の治療法) および膝関節の治療法の練習
第5回	小テスト(膝関節の治療法) および膝関節の治療法の練習
第6回	腰部の機能解剖
第7回	腰部の検査法(触診・椎間板ヘルニア検査法)
第8回	股関節の機能解剖
第9回	股関節の検査法(触診)
第10回	小テスト(腰部・股関節の機能解剖・検査法) および腰部・股関節の検査法の練習
第11回	小テスト(腰部・股関節の機能解剖・検査法) および腰部・股関節の検査法の練習
第12回	腰部・股関節の治療法(固定法・就寝時や起床時の体位変換)
第13回	腰部・股関節の治療法(股関節の運動療法)
第14回	小テスト(腰部・股関節の治療法) および腰部股関節の治療方法の練習
第15回	小テスト(腰部・股関節の治療法) および腰部股関節の治療方法の練習

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	総合実技 I B	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	認定実技審査の出題項目に対応した施術実技を行う。 国家試験（特に必修問題）の対策を行う。				
到達目標	認定実技審査および国家試験における合格基準を達成する。				
成績評価	中間試験 60% (30%×2 回) 期末試験 40%				
使用教材	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 認定実技審査要領および中和式マニュアル				
留意点	出席を常とし、理論に基づいた実技の修得を心がけること。				

回 数	授業計画
第 1 回	骨折の復習
第 2 回	脱臼の復習
第 3 回	第 1 回中間試験 (30%)
第 4 回	軟部組織損傷の復習
第 5 回	軟部組織損傷の復習
第 6 回	第 2 回中間試験 (30%)
第 7 回	総復習
第 8 回	総復習
第 9 回	総復習
第 10 回	国家試験必修問題対策
第 11 回	国家試験必修問題対策
第 12 回	国家試験必修問題対策
第 13 回	国家試験一般問題対策
第 14 回	国家試験一般問題対策
第 15 回	期末試験 (40%)

2025年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3年	学期	後期
科目名	総合実技ⅡB	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	有	時間数	30
学修内容	認定実技試験に対応できる、知識と技術を獲得する。 実務に向けた総合学習を行う。				
到達目標	固定法を行うことができる。 各骨折、脱臼について説明することができる。				
成績評価	認定実技模試と認定実技審査の結果を元に評価を行う				
使用教材	授業内で配布する資料 柔道整復学（理論編・実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 包帯固定法：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点					

回数	授業計画
第1回	シーネ・アルミ副子・厚紙副子固定練習
第2回	シーネ・アルミ副子・厚紙副子固定練習
第3回	シーネ・アルミ副子・厚紙副子固定練習
第4回	絆創膏・テーピング固定練習
第5回	絆創膏・テーピング固定練習
第6回	絆創膏・テーピング固定練習
第7回	認定実技模試前総合復習
第8回	模試反省改善点の確認
第9回	認定実技直前総合復習
第10回	認定実技後振り返り
第11回	国家試験対策
第12回	国家試験対策
第13回	国家試験対策
第14回	国家試験対策
第15回	国家試験対策

2025 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	外傷予防	科目の別	実習	単位数	1 単位
担当教員	戸崎 素成	実務経験	有・無	時間数	30 時間
学修内容	競技者・高齢者に発生する外傷の特徴と、その予防について学習する。				
到達目標	競技者と高齢者に発生する外傷の特徴を理解し、説明することができる。 外傷を予防するための方法を適切に指導することができる。				
成績評価	定期試験 100%				
使用教材	競技者の外傷予防：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復師と機能訓練指導：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	柔整理論の各論で学習した内容が含まれるため、復習して授業に臨むこと。 30 時間の内訳は、「競技者の外傷予防 15 時間」、「高齢者の外傷予防 15 時間」で実施する。				

回 数	授業計画
第 1 回	競技者の外傷予防 運動生理学の概要
第 2 回	競技者の外傷予防 運動生理学の概要
第 3 回	競技者の外傷予防 概論・外傷の発生原因 外傷の予防対策
第 4 回	競技者の外傷予防 メディカルチェック 評価と判定
第 5 回	競技者の外傷予防 コンディショニング方法
第 6 回	競技者の外傷予防 コンディショニング方法 種目別の外傷予防
第 7 回	競技者の外傷予防 種目別の外傷予防
第 8 回	競技者の外傷予防 成長期の外傷予防、高齢者の外傷予防 高齢者の特徴
第 9 回	高齢者の外傷予防 受傷メカニズム
第 10 回	高齢者の外傷予防 ロコモティブシンドローム / サルコペニア / フレイル
第 11 回	高齢者の外傷予防 転倒予防
第 12 回	高齢者の外傷予防 機能訓練
第 13 回	高齢者の外傷予防 運動と要点
第 14 回	高齢者の外傷予防 運動と要点
第 15 回	高齢者の外傷予防 運動と要点